

戦 略 研 究 追 跡 評 価 報 告 書

研究領域名	エイズ予防のための戦略研究		
研究課題名 【研究課題】	男性同性愛者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な啓発普及戦略の開発 【首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究】		
研究実施団体	財団法人エイズ予防財団		
研究リーダー	氏名： 市川 誠一	所属： 名古屋市立大学	職位： 教授
研究期間	平成 18 年度～22 年度		
研究の概要（研究計画）	研究の概要（研究計画）		
【研究目的】	男性同性愛者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な啓発普及戦略を開発する。		
【研究計画内容】（当初の計画）	<p>1. 対象地域・対象者 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）および阪神圏（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県）に在住する MSM (Men who have sex with men) を対象者とする。</p> <p>2. 研究方法および介入方法 首都圏、阪神圏において MSM の HIV 抗体検査を促進する広報介入を行い、本研究の検査受け入れに協力した施設（以下、定点施設）とそれ以外の施設別に検査件数の動向とエイズ発症者数の抑制効果を介入前後で比較する。</p> <p>1) MSM に訴求性のある啓発介入の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首都圏、阪神圏の NGO と協働し、HIV 感染をより身近に感じさせ感染リスク認識を高めるため、MSM に訴求性のある資料の開発普及を実施する。</li> </ul> <p>2) MSM の受検行動を支援する検査・相談体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MSM の HIV 抗体検査の受皿となる保健所・公的検査機関、STD クリニックを確保し、利便性の高い HIV 抗体検査体制を整備する。</li> <li>・ 受検行動の阻害因子となっている MSM への偏見や不適切な対応に対し、MSM への対応や相談に関する研修を実施する。</li> <li>・ HIV 感染への不安、検査や治療等への不安に対する電話相談等を整備する。</li> </ul> <p>3. 評価項目</p> <p>1) 主要評価項目</p> <p>(1) 定点保健所および公的 HIV 抗体検査機関、定点クリニックで行われた MSM の HIV 抗体検査件数</p> <p>(2) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数</p> <p>2) 副次的評価項目</p> <p>(1) MSM 受検者のうち本研究の啓発・広報戦略に曝露された割合</p>		

	<p>(2) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率</p> <p>(3) 陽性が判明した感染者への結果通知割合、医療機関受診割合</p> <p>(4) 陽性割合</p> <p>3) 研究期間：2006 年 11 月～2011 年 3 月 試験期間：2007 年 9 月～2010 年 12 月</p>
<p>※ 変更した場合、最新の計画を記載する 改訂年度 <u>2010 年度</u> プロトコルのバージョン <u>2.3</u> 倫理委員会承認年月日 <u>2010 年 8 月 4 日</u></p> <p>※ 変更履歴は別紙として提出</p>	<p>1 対象地域・対象者の変更</p> <p>首都圏（東京都、神奈川県、千葉県）および阪神圏（大阪府、兵庫県、京都府）に在住する MSM を対象者とする。</p> <p>* 2009 年 4 月現在、埼玉県、奈良県への具体的な介入計画がなく、評価体制も整っていないことから、2 地域を介入対象地域から削除した。（2009 年 4 月 30 日 倫理審査委員会提出）</p>
【研究目標】	HIV 抗体検査件数を 2 倍に増加させ、エイズ発症患者を 25%減少させる。
研究の波及効果 (学術的・国際的・社会的)	<p>1) 首都圏では戦略研究まで殆どエイズ関連の啓発介入がなかった地域(上野・浅草、新橋、渋谷)での啓発活動を展開し、阪神圏では、6000 人規模の大型イベントを毎年開催し、MSM の中でも HIV/AIDS に無関心な層を呼び込んだ。Hard to reach 層である MSM に、当事者 NGO の訴求性のある啓発活動により介入対象層が拡大したことは社会的意義が大きい。</p> <p>2) 首都圏では保健所等の検査キャパシティの高い施設で、阪神圏ではクリニックにおいて、MSM の受検しやすい受検機会を確保し、検査行動を促進させた。本研究は当事者 NGO、研究者、自治体・保健所等の関係機関が協働する研究体制を構築し、検査普及や予防介入に関する啓発事業と効果評価を行うことを連動させて取り組むことの有効性を明確にした。今後のエイズ対策の展開に重要な成果が得られており、社会的意義が大きい。</p> <p>3) HIV マップ、検査担当者への MSM 対応の研修会、陽性者支援のための電話相談、阪神圏の MSM 対象のクリニック検査、イベント会場での即日検査体制などは、他地域での MSM を対象とした検査促進の参考となる。これらの手法は脆弱性の高い性産業従事者や IDU など他の個別施策層にも有用であり、一般化できる。</p> <p>4) 保健所・公的検査機関での HIV 検査受検者数や受検者の属性の動向は予防啓発や早期検査・早期治療のエイズ対策効果を把握する上で有用であり、本研究で開発した調査法は今後のエイズ対策に活用できる。</p>
【当該研究の最終解析結果】	<p>1. MSM を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラム</p> <p>1) 首都圏地域の MSM を対象にした啓発介入</p> <p>(1) MSM に訴求性のある啓発介入の開発</p> <p>首都圏の MSM を対象に、エイズ発症前の検査受検を促進する新たな啓発介入を、新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜のゲイ向け商業施設を中心に、アウトリーチによって展開した。MSM に向けた啓発情報や検査機関・相談支援などの情報を掲載した冊子等の紙資材および Web サイト・HIV マップを同期させて、一貫した広報戦略を展開した。啓発に際しては年齢や聴覚障害など多様な MSM を考慮した資材を作成し、訴求をはかった。</p>

(2) MSM の受検行動を支援する検査・相談体制の整備

[HIV マップの開設]

HIVに関連して生じる様々な相談、特に MSM 向けに相談対応が可能な NGO 等との連携構築を進め、相談窓口を開設している機関をリストアップし、インターネットサイト「HIV マップ」に掲載し、さらに自治体、拠点病院、NGO、検査機関等にこのインターネットサイトを紹介して検査と相談をつなぐことを目指した。

[あんしん HIV 検査サーチ]

東京、神奈川、千葉県の自治体と連携し、保健所等の HIV 検査実施者への研修会として、MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応について、当事者参加型の模擬体験研修を企画・実施した。

この研修会を受講した保健所等の検査機関の内、MSM への積極的な HIV 検査機関広報戦略に応じた保健所を「あんしん HIV 検査サーチ」に掲載し、定期検査と臨時検査の紹介を行った。あんしん HIV 検査サーチに紹介した保健所等検査機関 (38 機関) を首都圏の介入定点機関とした。

(3) エイズ発症予防「できる！」キャンペーン

2009 年から『AIDS 発症予防「できる！」キャンペーン』を企画し、検査情報を盛り込んだ紙媒体の広報資材は商業施設やクラブイベントで配布し、Web 上では HIV マップと連動して PC 版、携帯版サイトにて広報した。2010 年度は、『AIDS 発症予防「できる！」キャンペーン』を 2 か月ごとに訴求性のある資材を作成し、リニューアルした検査機関情報を様々な媒体（紙、MSM が利用する Web・雑誌、イベント、商業施設、サークル活動、放送など）を介して、多様な MSM に向けて提供した。

2) 阪神圏地域の MSM を対象にした啓発介入

(1) MSM に訴求性のある啓発介入の開発

阪神圏の MSM を対象に、検査行動を促進させるための啓発介入を、Web サイトや紙資材、大阪市北区公園の公共空間における受検行動促進啓発イベント『PLuS+』を 2006 年から 2010 年まで実施し、多様な MSM 層のとりこみを図った。イベント参加者は 6,000 人/回で、内 MSM は 60%を占め、新たな啓発介入対象の MSM を取り込んだ。

(2) MSM の受検行動を支援する検査・相談体制の整備

阪神圏で初めてとなる HIV 陽性者のための電話相談「陽性者サポートライン関西」および陽性者支援プログラムを構築した。

阪神圏では、保健所等での MSM 受検機会を拡大する介入体制が構築できなかったが、MSM の HIV 検査促進について性感染症等の医療機関 7 施設の協力を得ることができた。

(3) クリニック検査キャンペーン

3 医療機関を定点とするクリニック検査キャンペーンを 2007 年に試行し、翌年には 7 医療機関を定点クリニックとし、2009 年からはキャンペーン期間を 8 カ月とした。また、2010 年は「PLUS+」イベント会場における迅速検査会「MaQ」を実施した。

クリニック検査キャンペーン、MaQ を利用した MSM 受検者の HIV 陽性率は高く、MSM に向けた新たな検査機会を企画・構築し、その有効性を実証した。

2. 啓発介入の評価結果

1) HIV 検査件数および受検者アンケートの概要

MSM を対象とした啓発介入を評価するために、保健所等・公的検査機関およびクリニックにおける受検件数、陽性者数等の動向調査および受検者への5分間アンケートを実施し、主要評価項目、副次的評価項目について分析した。

HIV 検査受検者 HIV 検査件数に関する調査は2007年10月より開始し、2010年12月末まで実施した(参加施設:保健所・公的検査機関112施設、クリニック21施設の計133施設)。

同時に HIV 検査受検者に対する質問紙調査を実施し、首都圏参加施設より93,626枚、阪神圏参加施設より29,174枚、計122,914枚を回収し、我が国で初めての大規模な調査となった(回収率:首都圏保健所80.1%-85.1%、阪神圏保健所89.8%-94.8%、首都圏クリニック68.0%-88.9%、阪神圏クリニック55.6%-75.4%)。分析対象者は産婦人科受検者や性別不明等の無効回答を除く121,032件とした。

## 2) 主要評価項目

### (1) MSM の HIV 抗体検査件数

- 保健所等での全受検者数は2008年末に増加傾向を示したが、2009年の新型インフルエンザ流行が保健所等の受検件数に影響を及ぼし、検査件数は減少し、その後横ばいとなった。その一方で受検者に占める MSM 割合は、首都圏では保健所において、阪神圏では定点クリニックで上昇した。

#### [保健所等の HIV 検査受検者に占める MSM 割合]

- 首都圏の受検者(87,531件)における MSM 割合は、定点保健所等では2007年8.3%から2010年13.4%(第4四半期)に増加し、MSM の定点保健所への受検促進が示された。定点以外の保健所等では5.2%から8.4%の上昇であった。
- 阪神圏の受検者(25,440件)における MSM 割合は、2007年12.1%、2008年7.9%、2009年6.5%、2010年9.1%と変化はなかった。

#### [クリニックの HIV 検査受検者に占める MSM 割合]

- 首都圏の受検者(4,641件)における MSM 割合は、2008年6.5%、2009年8.7%、2010年5.8%と変化はなかった。(2007年は調査実施せず)
- 阪神圏の定点クリニックでは、受検者(3,405件)における MSM 割合は、2007年6.0%、2008年14.3%、2009年21.0%、2010年23.1%と、およそ4倍に上昇し、クリニック検査キャンペーンによる受検促進の効果が示された。

### (2) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数

- 同性間感染の AIDS 発症者数は2000年から2006年までの報告値に基づく推計値(橋本修二氏算出)と比較し、以下の結果を得た。
- 首都圏の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は82.2で、報告数69件は推計値より16.1%低かった。
- 阪神圏の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は31.3で、報告数57件は推計値より82.1%高かった。
- 関東および近畿地域以外の対照地域の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は73.9で、報告数88件は推計値より19.1%高かった。

2010年の AIDS 発症者数は、検査キャパシティのある保健所に MSM を誘導した首都圏で16%減少となっていた。

### 3) 副次的評価項目

#### (1) MSM 受検者で本研究の啓発資材に曝露された割合

##### [保健所の HIV 検査受検者に占める介入資材認知割合]

- ・ 首都圏定点保健所の MSM 受検者における首都圏の介入資材の認知割合は、18.2%(2007年)から49.9%(2010年)と2.7倍に上昇し、MSM への訴求性の高さが示された。非定点保健所でも9.3%(2007年)から37.9%(2010年)と上昇した。
- ・ 阪神圏保健所の MSM 受検者における阪神圏資材の認知割合は7.6%から13.9%で変化は見られなかった。

##### [クリニックの HIV 検査受検者に占める介入資材認知割合]

- ・ 阪神圏定点クリニックの MSM 受検者における資材認知割合は0.0%(2007年)から37.2%(2010年)と上昇し、介入資材の MSM への訴求性の高さが示された。

#### (2) MSM 集団における HIV 抗体検査生涯受検率と過去1年間の受検率

MSM 集団における介入資材等の効果を評価するために、RDS (Respondent Driven Sampling) 法による携帯電話質問紙調査、ゲイバー等の商業施設利用者を対象とした質問紙調査を実施した。

##### 首都圏：

2008年、2010年に新宿、上野浅草、新橋、横浜の同性愛者等が利用するバーにおいて顧客対象のアンケート調査を実施し、首都圏の MSM 集団における生涯受検率、過去1年間の受検率を把握した。

- ・ 生涯受検率は、2008年が61.3%、2010年が59.1%、過去1年間の受検割合も2008年が31.7%、2010年が27.7%でほぼ同じであった。過去1年間に受検経験があった MSM のうち、最近に受検した検査場所は両年度とも首都圏の保健所・保健センターが最も高く、2008年37.8%から2010年は45.6%と上昇し、保健所の利用が増えていることが示された。

- ・ 2010年に2ヵ月ごとに展開した「できる！キャンペーン」4種のポスターの認知別に受検経験率を比較したところ、新宿地域、新橋地域、上野・浅草地域、横浜野毛地域のいずれの地域も、ポスター認知群は非認知群に比べて高い受検経験率で、また認知したポスター数が多いほど高い受検経験率であった。

2種類以上のポスターを認知している群は、非認知群よりも有意に高い受検経験率であった。

- ・ ポスター認知群は生涯受検率、過去1年受検率のどちらも高かったことから、新規に受検した者が増えたことが示唆された。

2ヵ月ごとのポスター広報の訴求性が高いこと、それらを繰り返して広報したことで、受検行動を促進させた効果が示された。

##### 阪神圏：

阪神圏では、大型イベント PLUS+の会場で RDS 法による携帯電話調査を2007~2009年に実施し、2010年はバー顧客調査を実施した。

- ・ 阪神圏の MSM 集団における生涯受検率は、RDS 携帯電話調査では生涯の検査受検経験率は2007年56.7%、2008年65.0%、2009年68.2%と上昇し、過去1年の受検経験率は31.5%、38.7%、37.6%であった。最近の受検場所として、クリニックは2.9%から7.4%、11.1%と上昇していた。

- ・ バー顧客調査では50%(2010年)、過去1年間受検割合は各々の調査で32-38%、29%であった。2010年に実施したバー顧客調査では、生涯での HIV 抗体検査受検率は49.8%、過去1年間の HIV 抗体検査

査受検率 29.0%で、ともに過去の調査と同程度であった。

(3)陽性が判明した感染者への結果通知割合、医療機関受診割合

首都圏：

- ・首都圏で戦略研究に参加した保健所、特設 HIV 検査機関、計 81 施設(東京 23 施設、神奈川 40 施設、千葉 18 施設)で、2007 年 10 月～2010 年 12 月の検査件数は 115,622 件の内、陽性数(陽性率)596 件(0.52%)、陽性通知数(通知率)560 件(94.0%)、その内の受診確認数(確認率)445 件(79.5%)であった。

阪神圏：

- ・阪神圏の定点クリニック検査キャンペーンは、検査、陽性告知とも医療機関で行われた。

(4)陽性割合

首都圏：

- ・定点保健所における 2010 年の HIV 陽性率は 0.44%で、この 1 年間で 0.25%から 0.63%に上昇した。受検者中の MSM 割合は定点保健所、非定点保健所共に上昇したが、陽性割合の上昇がみられたのは定点保健所の男性のみで 0.33%から 0.87%と 2.6 倍の上昇であった。感染リスクの高い MSM が定点保健所を利用していたことが示唆された。

阪神圏：

- ・首都圏のような保健所等での MSM 受検機会を拡大する介入体制が構築されず、定点クリニックでの MSM 受検促進となった。HIV 陽性率は定点クリニック検査で 5.5%、迅速検査会 MaQ で 5.1%と高く、MSM の早期検査・早期治療への機会として有用であった。

### 3. 結論

首都圏では保健所を、阪神圏ではクリニックを検査定点として、MSM が利用する商業施設や Web サイトへの啓発介入し、HIV 検査の受検促進を図った。保健所等での全受検者数は 2008 年末に増加傾向を示したが、2009 年の新型インフルエンザ流行後に検査件数は減少し、その後横ばいとなった。しかし、MSM に向けた啓発介入は、首都圏の定点保健所、阪神圏の定点クリニックで MSM の受検が促進されていた。

首都圏の定点保健所では、介入資材の認知率が MSM 受検者のみで上昇し、その訴求性が示された。そして、受検者に占める MSM 割合は 2007 年 8.3%から 2010 年 13.4% (第 4 四半期) に上昇し、男性受検者の HIV 陽性割合も 0.33%から 0.87%に上昇した。2010 年のエイズ患者報告数は推計値より 16.1%減少した。2010 年に 2 ヶ月ごとに展開した「できる！キャンペーン」4 種の資材認知は高く、受検行動を促進していたことが MSM 集団の調査から明らかとなった。

阪神圏では定点クリニックで MSM 割合が上昇し、陽性割合も 5%と高い結果となり、早期検査と受診の検査環境を構築した。STD 等のクリニックで MSM の HIV 検査を促進する介入は我が国では初めての試行であり、その有効性が示された。しかし阪神圏では、2010 年のエイズ患者報告数は推計値を超え、検査受け入れキャパシティが大きい保健所等で MSM 受検機会を拡大する介入体制を構築できなかったことが影響した。

<p>【関連研究の最新の進捗状況】</p>	<p>1) 戦略研究で開発された事業の継続と展開</p> <p>戦略研究で NGO/NPO が開発・実施したプログラムや調査研究の一部は、厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業」および厚生労働省エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究(以下、MSM 対策研究)」班において継続された。</p> <p>委託事業には、MSM 向けコミュニティーセンター事業、MSM 向け HIV 総合情報サイト「HIV マップ」の運営、阪神圏の相談窓口としての「HIV サポートライン関西」「ひよっこクラブ」があり、他に HIV 検査における MSM 対応に関する保健師対象研修会、保健所等の受検者アンケート、クリニック検査キャンペーンが継続された。</p> <p>2) 首都圏の MSM の受検促進について</p> <p>首都圏の NGO/NPO は、自治体・保健所とのエイズ対策事業に関する意見交換会により連携を図り、戦略研究時の MSM の受検環境を維持するために、保健所等の HIV 検査担当者への研修会を実施し、MSM の HIV 検査を積極的に実施する保健所等を冊子「ヤローページ」に掲載し、またインターネットサイト HIV マップ上の「あんしん HIV 検査サーチ」に掲載して MSM に広報する活動を行っている。</p> <p>MSM 対応の検査環境を周知するための冊子「ヤローページ」は、同性愛者等が利用する商業施設と保健所等の HIV 検査機関を掲載し、戦略研究後も、新宿、上野、浅草、新橋、横浜等の地域の MSM に広報して受検促進を図っている。</p> <p>3) 阪神圏の MSM の受検促進について</p> <p>阪神圏では、クリニック検査キャンペーンが継続され、2011 年から 2013 年夏までに 2-3 カ月のキャンペーンを 5 回実施し、延べ 849 名の受検者で陽性率 3.4%であった。保健所等検査機関の 10 倍高い陽性率であることから、大阪府では事業化を検討している。</p> <p>4) 他の地域の MSM の受検促進について</p> <p>MSM 対策研究班は、地方の MSM においてエイズ患者が増えている現状から、地域の保健所等での MSM 受検者の状況を把握し、自治体と地域 NGO が協働して MSM 対象の HIV 検査を促進する施策の効果を評価することを目的に、戦略研究で実施した 5 分間受検者アンケートを改訂し、8 都府県 11 自治体（沖縄県、東京都、愛知県、名古屋市、大阪府、大阪市、神奈川県、横浜市、千葉県、福岡市、仙台市）の保健所等 83 施設で調査を実施した。各地域の受検者に占める MSM 割合の推移、MSM 受検者の NGO 活動や資材等の認知を評価した。</p> <p>地方においても、保健所等の HIV 検査受検者の MSM の NGO 啓発資材認知割合は、NGO が行う啓発キャンペーンと連動した変化がみられ、NGO による啓発の効果が示唆されている。大阪府・市では現在も受検者のアンケート調査を継続し、施策評価の指標としている。</p> <p>5) MSM の人口規模と HIV 感染リスク行動</p> <p>成人男性(20~59 歳)に占める MSM は 4.6%で、商業施設を利用する MSM は非利用 MSM に比べて性感染症既往割合、コンドーム非常用</p>

割合が高く、HIV 感染リスク行動が高いことが分かった。商業施設を介した啓発介入が今後も必要であることが示唆された。MSM 対策研究班では、ハッテン場等への介入について NGO と検討している。

MSM の人口規模を出生年別に求め、出生年別の HIV 感染者発生の推移を推定したところ、20 歳代の若年層での増加が著しい。MSM への対策を強化しないと、戦略研究で AIDS 発症割合を下げた首都圏において、戦略研究以前を超える状況となることが考えられる。なお、東京都のエイズ患者報告数は 2012 年以降増加傾向にある。

6) アジアの MSM における HIV 感染拡大—モンゴル国、中国への研究協力

タイ、中国、台湾をはじめとするアジアの各地域では、MSM における HIV 感染が拡大しており、人口規模でおよそ 1/6 の台湾は日本を超える報告数となっている。MSM の国内移動はもとより国外移動に伴う HIV 感染対策は今後必要となる取り組みであり、戦略研究での当事者 NGO と研究者および保健医療職者が協働した体制での研究は、MSM への偏見・差別が強いアジア地域の参考となるものと考えられる。

・ モンゴル国の MSM における HIV 感染対策

モンゴルでは、近年 MSM の間で急速に HIV 感染が拡大していることから、エイズ予防のための戦略研究で男性同性愛者を対象に実施した HIV 啓発の手法をモデルとして、戦略研究に関わった研究者が、モンゴルの NGO、国立感染症病院の医師とともに啓発活動に関わり、継続的にその活動を支援している。この活動に対して、WHO、UNAIDS、モンゴル保健省が HIV 感染症の鍵となる活動として関心を寄せている。

・ 中国 CCDC, シンセン市 CDC の MSM の HIV 感染対策

中国では MSM における HIV 感染拡大が深刻な状況にあることから、CCDC 所長の要望により日本の MSM の HIV 感染に NGO と協働して取り組む MSM 対策研究班の研究を、CCDC およびシンセン市 CDC に訪問して研究者に発表した。また 2013 年度の研究会会議に研究者と NGO が来日して参加し、東京、大阪のコミュニティセンター訪問、NGO との情報交換をした。なお長崎大学との共同により行ったものである。

【当該研究もしくは関連研究に関する国内外の学術誌等に対する投稿論文】  
※査読のあるものに限る

欧文誌：5 編  
和文誌：7 編

- 1) Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, and Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, *Sexual Health*, 8(1), 123-124, 2011
- 2) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: 日本成人男性における HIV および AIDS 感染拡大の状況—MSM (Men who have sex with men) と MSM 以外の男性との比較—, *厚生学の指標*, 58(13), 12-18, 2011
- 3) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: Regional Feature: Testing, treatment and prevention among gay and other men who have sex with men in Japan - an update, *HIV Australia*, 9(3), 40-43, 2011
- 4) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: The Epidemiology of HIV/AIDS and Gay Men's Community-Based Responses in Japan,



	<p>Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific, Published online, <a href="http://intersections.anu.edu.au/issue26/koerner-ichikawa.htm">http://intersections.anu.edu.au/issue26/koerner-ichikawa.htm</a>, Issue 26, Aug. 2011</p> <p>5) 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一, ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因: 大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から, 日本公衆衛生雑誌, 58(7), 501-514, 2011</p> <p>6) 市川誠一: 男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査普及の取り組み - 「エイズ予防のための戦略研究」後のエイズ発生動向の考察, 病原微生物検出情報, 33(9), 231-232, 2012</p> <p>7) 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯での HIV 検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14(2), 99-105, 2012</p> <p>8) Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto and Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 9(4), 328-333, 2012</p> <p>9) 福山由美, 市川誠一, 大林由美子, 杉浦 互, 横幕能行: 愛知県におけるエイズ診療拠点病院初診患者の受診遅れと検査遅れに関連する要因, 日本エイズ学会誌, 2013, 15(2), 119-127</p> <p>10) 堀希好, 金子典代, 市川誠一: 養護教諭が生徒から受ける同性への性的指向の相談の実態と対応に関する研究, 思春期学, 2013, 31(1), 167-174</p> <p>11) Harutaka Katano, Yoshiyuki Yokomaku, Hitomi Fukumoto, Takayuki Kanno, Tomoyuki Nakayama, Akitomo Shingae, Wataru, Sugiura, Seiichi Ichikawa, and, Akira Yasuoka: Seroprevalence of Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus Among Men Who Have Sex With Men in Japan, Journal of Medical Virology, 2013, 85, 1046-1052</p> <p>12) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM(Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 2013, 60 巻(10号), 639-650</p>
<p>【当該研究もしくは関連研究に関する国内外での学会等報告】 ※査読のあるものに限る</p>	<p>国際学会 : 11 題 (シンポジウム 2 題を含む) 国内学会 : 52 題 (シンポジウム 8 題を含む)</p> <p>(国際学会)</p> <p>1) Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Jane Koerner, Yukio Cho, Junko Araki, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: Results of the 2008 to 2010 RDS Mobile Phone Survey to Evaluate the Strategic Research HIV Testing Promotion Campaign among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011</p> <p>2) Kei Shibata, Kota Iwahashi, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: HIV Map Internet portal site: Part of the Strategic Research to promote HIV Testing among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011</p>

- 3) Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
- 4) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The Strategic Research "We can do it! 2010" campaign to promote testing behavior among MSM in the Tokyo region, The 16th International AIDS Conference, Washington DC, U.S.A., July, 2012
- 5) Noriyo Kaneko: Strategic Research to promote HIV testing among MSM (Men who have sex with men) in the wider Tokyo and Osaka regions, The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology, Shimane, Japan, 2012
- 6) Misao Takano: Strategic multimodal AIDS prevention program against gay community in Japan, 4th JAPAN-KOREA Joint Symposium on HIV/AIDS, Tokyo, 2012
- 7) D. Dorjgotov, S. Oka, S. Ichikawa, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Galsanjants: Effect of the activities of non-governmental organizations (NGOs) on men who have sex with men (MSM) in Mongolia, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 8) N. Galsanjants, M. Dorjgotov, E. Gombo, D. Jagdagsuren, S. Shiono, N. Kaneko, S. Oka, S. Ichikawa: Development & implementation of the project "We are Living Under the Same Sky", the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 9) Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 10) Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Yuki Tada: Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality, the 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013
- 11) Seiichi Ichikawa: HIV Prevention Strategy among Men who have Sex with Men (MSM) in Japan, - Current situation of HIV infection among MSM and prevention activities of NGOs-, The 11th Taipei International Conference on HIV/AIDS, Taipei, September, 2013

(国内学会)

- 1) 荒木順子, 岩橋恒太, 張由紀夫, 砂川秀樹, 柴田恵, 高野操, 星野慎二, 塩野徳史, 生島嗣, 市川誠一: ゲイコミュニティ及び行政機関に向けた, 首都圏における広報資材の大規模アウトリーチの構成と実績 - エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ -, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京
- 2) 柴田恵, 岩橋恒太, 張由紀夫, 荒木順子, 高野操, 生島嗣, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における HIV 抗体検査情報提供手法の開発 - エイズ予防のための戦略研究 MSM 首

- 都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 3) 生島嗣, 荒木順子, 佐藤未光, 高野操, 中澤よう子, 星野慎二, 岩橋恒太, 張由紀夫, 市川誠一, 野口雅美, 滝田由紀子, 御子柴朋子, 新屋敷房代: 東京周辺の検査従事者にむけた研修会実施とその影響についての考察～エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 4) 岩橋恒太, 高野操, 塩野徳史, 柴田恵, 生島嗣, 張由紀夫, 荒木順子, 砂川秀樹, 市川誠一: 首都圏居住 MSM に向けた HIV 抗体検査促進のためのキャンペーン「できる!」の構成と効果ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 5) 高野操, 塩野徳史, 石塚直樹, 金子典代, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの結果報告ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 6) 鬼塚哲郎, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 山田創平, 塩野徳史, 市川誠一: 大阪の野外啓発大規模イベント「PLuS+」とその評価ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 7) 岳中美江, 辻宏幸, 川畑拓也, 有馬和代, 古林敬一, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一: エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント PLuS+における MSM を対象とした HIV 迅速検査会の実施についてーエイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 8) 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田畑運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 9) 大野まどか, 岳中美江, 柏木瑛信, 白野倫徳, 伊達直弘, 野坂祐子, 松浦基夫, 矢島嵩, 青木理恵子, 生島嗣, 市川誠一: 地域における新 HIV 陽性者対象のプログラム実践についてーエイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 10) 塩野徳史, 高野操, 木村哲, 岡慎一, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 岳中美江: 阪神圏における医療機関, 保健所などの検査機関における受検者動向と介入評価に関する研究(2009 年～2010 年)ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 11) 金子典代, 岩橋恒太, 塩野徳史, Koerner Jane, 生島嗣, 荒木順子, 市川誠一: RDS 法を用いた携帯電話調査による首都圏での啓発プログラムの評価ーエイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 12) 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 生島嗣, 鬼塚哲郎: ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
  - 13) 中村久美子, 木村博和, 荒木順子, 柴田恵, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベント利用者質問紙調査による東京の加入プログラム

の効果評価に関する研究, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

14) 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 狭間隆司, 橋口卓, 山本政弘, 井上緑: 福岡地域における男性同性間の HIV 感染対策とその推進 CBO「Love Act Fukuoka(LAF)」の啓発活動の展開とコミュニティセンターhaco の有用性について, 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

15) 新ヶ江章友, 塩野徳史, 金子典代, 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 辻潤一, 橋口卓, 狭間隆司, 山本政弘, 市川誠一: 福岡のゲイ商業施設利用者を対象とした HIV/AIDS をめぐる啓発活動の効果評価, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

16) Jane Koerner, 市川誠一, 金子典代, 塩野徳史: 滞日外国籍 MSM (Men who have Sex with Men) の健康および HIV 関連ニーズに関する調査, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

17) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄: MSM 向け予防啓発大規模イベントの継続が大阪の MSM コミュニティに与えた効果, 第 53 回日本社会医学学会総会, 高槻市, 2012

18) 川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 田端運久, 古林敬一, 岩佐 厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡 博, 大里和久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 1 報 - キャンペーンの改善点と検査結果, 日本性感染症学会 第 25 回学術大会, 2012, 岐阜

19) 後藤大輔, 岳中美江, 鬼塚哲郎, 古林敬一, 亀岡博, 大里和久, 岩佐厚, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 2 報 - 検査普及啓発資材について, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012

20) 塩野徳史, 市川誠一, 川畑拓也, 大里和久, 古林敬一, 岩佐厚, 亀岡博, 田端運久, 高田昌彦, 菅野展史: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 3 報 - 受検者の特性, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012

21) 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 塩野徳史, 岳中美江, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 診療所を窓口とした個別施策層向け HIV 検査普及プログラムの確立に向けた検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

22) 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 佐久間久弘, 大島岳, 木南拓也, 高野操, 塩野徳史, 市川誠一: HIV 検査提供機関, NPO, 研究機関による地域連携会議の効果に関する考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

23) 岩橋恒太, 荒木順子, 生島嗣, 塩野徳史, 佐久間久弘, 高野操, 大島岳, 木南拓也, 星野慎二, 柴田恵, 桜井啓介, 阿部甚兵, 市川誠一: 首都圏居住の MSM を対象とする検査普及プロジェクト「ヤロー」の構築と検討-「MSM 首都圏グループ」の取り組み, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

24) 柴田恵, 岩橋恒太, 生島嗣, 荒木順子, 高野操, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における抗体検査への準備性に注目した情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

25) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM を対象とするエイズ対策拠点としてのコミュニティセンターakta の機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総

会, 横浜市, 2012

- 26) 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ-アウトリーチ・マニュアル作成を通じて-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 27) 後藤大輔, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 萬田和志, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベントにおける郵送検査キットを用いた検査普及プログラムの試行と課題, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 28) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: MSM (Men who have Sex with Men) コミュニティにおけるゲイ向け商業施設利用者と非利用者の比較, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 29) 佐々木由理, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 萬田和志: 郵送 HIV 抗体検査受検者と保健所検査受検者の特性の比較, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 30) 牧園祐也, 鷺山和幸, 山本政弘, 北村紀代子, 塩野徳史: MSM 対象の HIV/STI 迅速検査会実施と CBO によるターゲットアプローチの考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 31) 辻麻里子, 阪木淳子, 曾我真千恵, 米山朋子, 石坂昌子, 長与由紀子, 松尾聖磨, 緒方稔, 長浦由紀, 財津和弘, 友枝沙紀, 藪内文明, 泉真理子, 久米信也, 茂志穂, 牧園祐也, 野田雅美, 齊藤和義, 山本政弘: 九州ブロックにおける自治体と中核拠点病院等が協働した HIV 検査相談研修会実施のための体制整備を目的とする講師養成会議と研修会実施について, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 32) 伊達直弘, 野坂祐子, 岳中美江, 柏木瑛信, 大野まどか, 白野倫徳, 松浦基夫, 青木理恵子: 地域における新規 HIV 陽性者対象のプログラムの実践と課題-大阪での“ひよっこクラブ”の取り組みから-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2012 年, 横浜
- 33) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: 保健所 HIV 抗体検査受検者における初受検者と再受検者の特性, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 34) 塩野徳史, 新山賢, 市川誠一: 愛媛県在住 MSM (Men who have sex with men) における居住地別 HaaT えひめの活動認知と予防行動-HaaT えひめ WEB アンケート 2011 から-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 35) 大島岳, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 岩橋恒太, 市川誠一: コミュニティセンターakta における対面情報提供機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 36) あかたちかこ, 下山美穂: 日本の都市圏における Hard to Reach Population に対する HIV 予防啓発資材の開発と配布-当事者と協働した HIPHOP 系クラブイベントでの実践報告を中心に-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2012 年 11 月 26 日
- 37) 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: 関西地域のゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 感染予防行動のステージ分布の経年的変化, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 38) 高野操, 中澤よう子, 金子典代, 塩野徳史, 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏保健所における HIV 抗体検査受検者に対する結果通知率と陽性者の医療機関受信確認率, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月
- 39) 佐久間久弘, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 大島岳, 木南拓也, 阿部甚兵, 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: コミュニティセンターakta を基点

とした MSM 向け性風俗店との連携を通じた予防行動促進キャンペーンの構成, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月

40) 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 塩野徳史, 市川誠一: MSM 向け HIV 検査普及プログラム「クリニック検査 1000 円キャンペーン」広報についての考察, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月

41) 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 小島洋子, 森治代: 診療所を窓口とした MSM 向け HIV 検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月

42) 岳中美江, 大野まどか, 柏木瑛信, 白野倫徳, 伊達直弘, 野坂祐子, 松浦基夫, 青木理恵子: 新規 HIV 陽性者対象のプログラムの経過と運営における課題—大阪での“ひよっこクラブ”の取り組みから—, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2013 年, 熊本

43) 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月

44) 牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月

#### (シンポジウム、公開を含む)

1) 高橋秀実, 岡慎一, 市川誠一: 2011 Annual Report 新たなエイズ制圧への道, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011 年 12 月 (対象: 学会員)

2) 生島嗣: 検査と告知-相談支援の現場から, 第 25 回日本エイズ学会学術集会, シンポジウム「検査・告知・相談」, 横浜, 2011 年 11 月 (対象: 学会員)

3) 高野操: 男性同性愛者の HIV 感染問題, 神奈川性感染症学会・HIV 検査シンポジウム, 神奈川県, 2011 年 (対象者は泌尿器科, 皮膚科, 産婦人科医など性感染症を診療している医師)

4) 生島嗣: NGO の立場から自治体, コミュニティと連携した活動, 第 26 回日本エイズ学会学術集会, シンポジウム「予防、検査・相談、治療、ケアをつなぐ結節点としての取り組み」, 横浜, 2012 (対象: 学会員)

5) 川畑拓也: 「クリニック検査キャンペーン」における医療機関への支援, 第 26 回日本エイズ学会学術集会, シンポジウム「予防、検査・相談、治療、ケアをつなぐ結節点としての取り組み」, 横浜, 2012 (対象: 学会員)

6) 岩橋恒太: 行政の統計から見えること～エイズサーベイランス動向委員会報告/身体障害手帳取得状況, シンポジウム 3 (社会)「MSM の感染予防とその課題～多角的な視点から考える」, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月 (対象: 学会員)

7) 市川誠一: バー調査から/検査機関の調査から見えること～性行動, 検査行動, 予防行動, 中高年が検査にいかない理由, シンポジウム 3 (社会)「MSM の感染予防とその課題～多角的な視点から考える」,

	<p>第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月 (対象: 学会員)</p> <p>8) 生島嗣: ステイグマの解消は今なお優先課題, 公開シンポジウム「治療と社会的偏見の解消」, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 年 11 月 (対象: 学会員, 一般市民)</p>
<p>【当該研究もしくは関連研究による受賞等】</p>	<p>市川誠一, 第 9 回日本エイズ学会アルトマーク賞, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2012 年度</p> <p>* 男性とセックスをする男性 (MSM) を対象にした、国内の予防、ケアの拠点づくり</p>
<p>【臨床現場への波及効果】</p>	<p>1) 男性同性愛者の HIV 感染対策は、社会分野の研究者を中心に行われてきたが、エイズ予防のための戦略研究では、研究計画の立案から研究の運営管理、検査促進の啓発、検査の実施まで、様々な場面で HIV 感染症や性感染症の臨床医が研究に参加した。社会と臨床の研究者が共同で研究を実施したことにより、戦略研究の成果がより臨床から注目されることとなった。また、臨床研究者を通じて基礎研究者へ研究成果が届くことにつながった。</p> <p>戦略研究後も社会分野の研究者と臨床分野の研究者が、それぞれの分野における研究結果について相互理解を深め、HIV 感染症の克服課題について、全体像を捉えた施策提言につながっている。</p> <p>特に、HIV 感染症の予防啓発、検査促進の第一義的な役割を担う地方自治体との人的ネットワークは、現在も継続的に堅持されており、戦略研究で成果のあった手法が、各自治体の HIV 感染対策に取り入れられている。</p> <p>2) 医療従事者や保健所・保健センター等の保健師、他市民団体に声かけをして実施していたカンファレンスは、関西 HIV 臨床カンファレンスがその意図を理解し、年に一度 NPO 交流会という形で継続している。また HIV サポートライン関西およびひよっこクラブの広報を、近畿一円のエイズ診療拠点病院及び保健所・センターに対して継続して行っている。陽性とわかる場面はもとより、陽性とわかって時間が経っている人や周囲の人にもプログラムの存在の周知ができるよう努めている。特に患者の多い主要拠点病院に協力をお願いし、支援を必要としている人に広報資材が案内される連携となっている。</p> <p>3) 阪神圏のクリニック検査キャンペーンの協力医師は、戦略研究後も大阪府・市による MSM 向け検査事業を継続して引き受けている。2011～2013 年度のクリニック検査キャンペーンで陽性と分かった 29 名のほぼ全員を医療機関につなげることができた。また、性感染症を診療している地域の医師でも、同性間性的接触の経験を有する患者へ HIV 検査勧奨を行う割合が戦略研究後に多くなっていた。</p>
<p>研究成果の社会への説明や施策への活用状況</p>	<p>1) 平成 24 年 1 月 19 日厚生労働省告示第 21 号をもって「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」の改定がなされた。この改定「予防指針」では、①個別施策層、特に MSM に対する重点的かつ計画的な施策を実施すること。②施策の実施にあたっては、国、</p>

	<p>地方公共団体、医療関係者および NGO の連携を強化することが盛り込まれた。MSM への計画的、重点的な施策の実施、NGO との連携、検査・相談体制の充実、MSM の受検者を増加させ、エイズ発症者の抑制を成果目標とした戦略研究の柱そのものであり、戦略研究の成果が予防指針に反映される形となった。</p> <p>2) 戦略研究で開発実施された事業の中で、MSM 向け HIV 総合情報サイト「HIV マップ」の運営、MSM 向けコミュニティーセンター事業の拡大、相談窓口としての「HIV サポートライン関西」「ひよっこクラブ」は厚生労働省委託事業として継続されている。これらの事業については、個別の名称は記載されていないものの、改正予防指針の中で、これらの事業の積極的な活用が記されている。</p> <p>3) 戦略研究の啓発介入拠点となったコミュニティーセンターakta、および同センターdista は、他の 4 地域のコミュニティーセンターと共に厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業(コミュニティーセンター事業)」として事業化された。</p> <p>4) 大阪府ではクリニック検査キャンペーンを「地域医療再生基金事業」により戦略研究後も継続した。大阪府・市では、保健所等の HIV 検査受検者アンケートを現在も継続し、エイズ施策の評価に活用している。特に、大阪府では MSM 受検者の割合を指標として、MSM の受検動向を評価している。</p>
<p>【当該研究の成果を踏まえた一般及び政策担当者等を対象とした講演等の実施状況】</p>	<p>一般および政策担当者等を対象に当該研究の成果等を発表したものについて、以下の分類で示した。</p> <p>1) 公開シンポジウム：エイズ予防のための戦略研究-その取り組みと成果</p> <p>2) 平成 23 年度エイズ対策研究推進事業研究成果等普及啓発事業・研究成果発表会(エイズ予防財団主催)</p> <p>3) 国立保健医療科学院・特定研修エイズ対策研修における発表</p> <p>4) 戦略研究で開発した保健所等の MSM 対応に関するエイズ対策研修の自治体・保健所等との合同開催</p> <p>5) 自治体・保健所、財団等のエイズ対策研修会・講習会等での発表</p> <p>6) 公開講演会、講習会での当該研究・関連研究の発表</p> <p>7) テレビ等での報道</p> <p>1) 公開シンポジウム：エイズ予防のための戦略研究-その取り組みと成果 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会共催シンポジウム(共催：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業)東京、2011 年 12 月(対象：学会員、一般公開) 座長：池上千寿子(ぶれいす東京)、樽井正義(慶応義塾大学)、平賀紀行(厚生労働省健康局疾病対策課) 発表者： (1) 木村哲(東京逡信病院/エイズ予防財団)：エイズ予防のための戦略研究-その目標と取り組み (2) 岡慎一(国立国際医療研究センター)：エイズ予防のための戦略研究-研究実施の概要 (3) 生島嗣(NPO 法人ぶれいす東京)：首都圏居住の男性同性愛者を対象とした地域介入研究 (4) 鬼塚哲郎(京都産業大学文化学部)：阪神圏居住の男性同性愛者を対象とした地域介入研究 (5) 市川誠一(名古屋市立大学看護学部)：エイズ予防のための戦略</p>



研究—研究から得られた成果

\* 研究成果報告・概要版の配布

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究(平成 18 年度～22 年度)首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究」(研究成果・概要版), 2011 年, 公益財団法人エイズ予防財団

2) 平成 23 年度エイズ対策研究推進事業研究成果等普及啓発事業・研究成果発表会(エイズ予防財団主催)

AIDS at 30 (エイズの発見から 30 年), 2011 年 12 月, (対象:一般公開)

(講演)

(1) 岡慎一(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター): HIV 感染症・エイズの状況

(2) 市川誠一(名古屋市立大学看護学部): エイズ予防のための戦略研究報告—首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

(シンポジウム: HIV 感染症・エイズ研究 30 年の進歩と今後の展望)

司会: 木村哲(エイズ予防財団理事長)、宮田一雄(産経新聞東京本社編集委員)

(1) 満屋裕明(熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学分野): 治療薬開発の歴史と今後の展望

(2) 山本政弘(国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合診療センター): 療養の長期化と医療体制の在り方

(3) 生島嗣(NPO 法人ふれいす東京): 陽性者支援について

(4) 山本尚子(厚生労働省疾病対策課): 今後の予防・支援・医療の在り方と研究の推進

\* 研究成果報告・概要版の配布

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究(平成 18 年度～22 年度)首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究」(研究成果・概要版), 2011 年, 公益財団法人エイズ予防財団

3) 国立保健医療科学院・特定研修エイズ対策研修における発表

(1) 市川誠一: MSM における HIV 感染の現状とその対策等について, 平成 23 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2011 年 12 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(2) 荒木順子: MSM に向けたコミュニティベースの啓発活動～コミュニティセンター事業とその役割～, 平成 23 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2011 年 12 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(3) 生島嗣: MSM を対象とした受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発&普及～保健所職員対象の研修と HIV マップ～, 平成 23 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2011 年 12 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(4) 岳中美江: 大阪におけるイベント検査の紹介, 平成 23 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2011 年 12 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(5) 市川誠一: MSM における HIV 感染の現状とその対策等について, 平

成 24 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2012 年 11 月(対象: 全国の保健所エイズ対策担当者等)

(6) 荒木順子: MSM に向けたコミュニティベースの啓発活動～コミュニティセンター事業とその役割～, 平成 24 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2012 年 11 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(7) 生島嗣: MSM を対象とした受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発&普及～保健所職員対象の研修と HIV マップ～, 平成 24 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2012 年 11 月(対象: 全国保健所エイズ担当者)

(8) 塩野徳史: 保健所の HIV 検査受検者の背景-6 地域の受検者アンケート調査から, 平成 24 年度特定研修・エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市 2012 年 11 月(対象: 全国保健所エイズ対策担当者等)

(9) 川畑拓也: 大阪における MSM(Men who have sex with men)に特化した HIV 検診プログラム「クリニック検査キャンペーン」の構築, 平成 24 年度特定研修・エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市 2012 年 11 月(対象: 全国保健所エイズ対策担当者等)

(10) 市川誠一: MSM コミュニティへのアウトリーチの実際, 平成 25 年度特定研修エイズ対策研修(国立保健医療科学院), 和光市, 2013 年 10 月 29 日(対象: 全国保健所エイズ担当者)

4) 戦略研究で開発した保健所等の MSM 対応に関するエイズ対策研修の自治体・保健所等との合同開催

(1) 東京都保健所等の HIV 検査担当者研修会, 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課エイズ対策係, 2011 年 6 月 17 日, 都庁第一庁舎(保健所エイズ担当者)

(2) 東京都保健所等の HIV 検査担当者研修会, 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課エイズ対策係, 2012 年 7 月 20 日, 都庁第一庁舎(保健所エイズ担当者)

(3) 東京都保健所等の HIV 検査担当者研修会, 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課エイズ対策係, 2013 年 6 月 21 日, 都庁第一庁舎(保健所エイズ担当者)

(4) 神奈川県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 神奈川県保健福祉局健康医療部健康危機管理課感染対策グループ, 2011 年 11 月 2 日, 横浜市健康福祉総合センター(保健所エイズ担当者)

(5) 神奈川県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 神奈川県保健福祉局健康医療部健康危機管理課感染対策グループ, 2012 年 11 月 7 日, 横浜市開港記念会館(保健所等エイズ担当者)

(6) 神奈川県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 神奈川県保健福祉局健康医療部健康危機管理課感染対策グループ, 2013 年 11 月 1 日, 横浜市開港記念会館(保健所等エイズ担当者)

(7) 千葉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 千葉県保健福祉部疾病対策課感染対策室, 2011 年 10 月 28 日, 市川健康福祉センター(保健所等エイズ担当者)

(8) 千葉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 千葉県保健福祉部疾病対策課感染対策室, 2012 年 10 月 19 日, 市川健康福祉センター(保健所等エイズ担当者)

(9) 千葉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 千葉県保健福祉部疾病対策課感染対策室, 2013 年 10 月 22 日, 市川健康福祉センター(保健所等エイズ担当者)

- (10) 埼玉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 埼玉県保健医療部疾病対策課感染対策担当, 2012 年 1 月 30 日, 浦和合同庁舎(保健所等エイズ担当者)
  - (11) 埼玉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 埼玉県保健医療部疾病対策課感染対策担当, 2012 年 9 月 14 日, 浦和合同庁舎(保健所等エイズ担当者)
  - (12) 埼玉県保健所等の HIV 検査担当者研修会, 埼玉県保健医療部疾病対策課感染対策担当, 2013 年 10 月 4 日, 浦和合同庁舎(保健所等エイズ担当者)
- \* ほかに仙台市、沖縄県、愛媛県、長野県においても同様の研修会で発表

5) 自治体・保健所、財団等のエイズ対策研修会・講習会等での発表

- (1) 平成 24 年度神奈川県保健所長会 2012 年 9 月(対象保健医療職者)  
市川誠一: HIV/AIDS の動向と対策-保健所の HIV 検査を軸とした首都圏での戦略研究の成果と課題
- (2) 名古屋市/名古屋市医師会エイズ講演会 2012 年 3 月(対象: 市民公開)  
市川誠一: エイズ予防のための戦略研究: 首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査普及の取り組みと成果
- (3) 市川誠一: 国のエイズ対策とエイズ対策研究事業について, 平成 23 年度感染症対策にかかる保健師研修(大阪市), 大阪, 2011 年 8 月(対象: 保健医療職者)
- (4) 岳中美江: HIV/エイズ相談の実際とロールプレイ, 平成 23 年度感染症対策にかかる保健師研修(大阪市), 大阪, 2011 年 8 月(対象: 保健医療職者)
- (5) 市川誠一: 国のエイズ対策とエイズ対策研究事業について, 平成 24 年度感染症対策にかかる保健師研修(大阪市), 大阪, 2012 年 8 月(対象: 保健医療職者)
- (6) 市川誠一: 国のエイズ対策とエイズ対策研究事業について, 平成 25 年度感染症対策にかかる保健師研修(大阪市), 大阪, 2013 年 8 月(対象: 保健医療職者)
- (7) 川畑拓也: HIV 感染症/エイズの基礎知識と検査について, 平成 24 年度 HIV 陽性者支援研修会(大阪府・大阪市主催), 大阪, 2012 年(陽性者支援者・団体等)
- (8) 川畑拓也: HIV 検査の基礎知識, エイズ予防財団 HIV 検査相談研修会, 大阪, 2011 年(全国の保健所保健師、検査技師、病院検査技師等)
- (9) 川畑拓也: HIV 検査の基礎知識, エイズ予防財団 HIV 検査相談研修会, 大阪, 2012 年(全国の保健所保健師、検査技師、病院検査技師等)
- (10) 市川誠一: エイズ予防のための戦略研究と今後の MSM への対策について, 東京都エイズボランティア講習会, 東京都福祉保健局, 東京, 2012 年 6 月(NGO/NPO, 保健医療職者など)
- (11) 高野 操: 首都圏の MSM に対する HIV 検査促進の取り組みと成果-エイズ予防のための戦略研究, 小諸佐久 HIV 診療ネットワーク研究会, 長野県, 2013 年(対象は医師、看護師、行政職員、養護教諭など)
- (12) 市川誠一: 首都圏における MSM と HIV/AIDS の現状を学ぶ, 長野市保健所・HIV 感染者・エイズ患者の支援を考える会, 長野市, 2013 年 12 月(対象: 保健師等)

6) 公開講演会, 講習会での当該研究・関連研究の発表

- (1) 市川誠一: セクシュアルマイノリティの理解と学校での支援, 平成

	<p>23 年度愛知県立高等学校学校保健会西三河支部会養護教諭研究会、愛知、2011 年 6 月（対象：養護教諭）</p> <p>(2) 市川誠一：男性同性間の HIV 感染と予防啓発の取り組み、京都エイズ文化フォーラム in 京都 2011、京都、2011 年 10 月（対象：一般市民）</p> <p>(3) 市川誠一：HIV/エイズに見る日本・アジア—日本・アジアにおける MSM の現状、国際基督教大学ジェンダー研究センター、東京、2011 年 12 月（対象：一般公開）</p> <p>(4) 市川誠一：多様な性への対応～子どもたちの声が聞こえていますか～、平成 23 年度エイズ対策従事者研修会（栃木県宇都宮市保健所）、宇都宮、2012 年 2 月（小・中・高等学校の養護教諭、保健師等）</p> <p>(5) 岡慎一：日本とアジアにおける HIV 感染症対策の現状と対策、熊本大学エイズ学研究センターグローバル COE 公開シンポジウム、東京、2012 年（対象：一般市民）</p> <p>(6) 市川誠一：エイズから学ぶ～30 年の変遷とこれから～、名古屋市立大学看護学部看護実践研究センター・地域連携セミナー、名古屋市、2013 年 7 月（対象：市民）</p> <p>(7) 市川誠一：セクシュアリティとセクシュアルヘルス—同性間の HIV/AIDS、性的指向の理解と対応—、愛知県学校保健会県立学校部会、愛知県、2013 年 7 月（対象：養護教諭ほか）</p> <p>(8) 市川誠一：エイズのこと、あなたは知っていますか、愛知サマーセミナー・名古屋市企画、2013 年 7 月 13 日（対象：市民）</p> <p>(9) 市川誠一：偏見から差別を生まないために～正しい知識を「心のブレーキ」に、セクシュアルマイノリティの人権を考える、名古屋市昭和生涯学習センター、名古屋市、2013 年 10 月 31 日（対象：市民）</p> <p>(10) 市川誠一：日本の HIV/エイズの現状—増え続けているエイズ患者の背景を考える—、名古屋市立大学社会人の学びなおし対応教育推進プログラム・医療保健学びなおし講座、名古屋市、2013 年 11 月（対象：保健医療職者）</p> <p>7) テレビ等での報道 NHK 教育テレビ「ハートをつなごう」—HIV/エイズを取り巻く環境、2012 年 11 月 28-30 日放映（対象：一般視聴者）</p>
【当該研究の成果を踏まえた施策事例】	首都圏の定点保健所、阪神圏の定点クリニックにおいて MSM の受検が促進された結果を受け、平成 23 年度より予算事業としてコミュニティセンター運営を行っている。
【当該研究に関連した施策の検討状況等】	「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」の次回の改正において、当該研究で得られた成果を踏まえ、MSM への介入を検討する見込みである。
戦略研究を通じて培われた人的資源の活用状況	
【当該研究を実施した研究者、研究を支援した組織・機関等の人材の状況】 ※研究実施団体における戦略研究のノウハウの蓄積、活用状況を具体的に記入。 ※流動研究員、研究協力者、研究協力機関等において、	戦略研究で NGO/NPO が開発・実施したプログラムの一部は、厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業」および厚生労働省エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究（以下、MSM 対策研究）」班において継続され、戦略研究後も地域の自治体や保健所等、医療機関、NGO/NPO、研究班との協力関係を継続してエイズ対策の促進に勤め、また他の地域における MSM のエイズ施策構築に協力した。以下に主な点を示す。

戦略研究の終了後、そのノウハウや経験を活かした活動があれば具体的に記入。  
※今後、戦略研究の参画・関与に推薦いただける方がおられましたら併せてご回答下さい。

- 1) 戦略研究の啓発介入拠点となったコミュニティセンターakta、および同センターdistaは、他の4地域のコミュニティセンターと共に厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」として事業化され、戦略研究期間に特に力を入れた、地方公共団体や医療機関との連携のノウハウを活かし、首都圏では保健所等・公的検査機関でのMSMの受検促進、阪神圏ではクリニック検査キャンペーンによるMSMの受検促進を進めている。
- 2) 首都圏のMSMに向けたHIV検査促進の介入に中心にかかわったNPO法人ぷれいす東京とNPO法人akta(旧Rainbow Ring)は、厚生労働省エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」班と「MSM首都圏グループ」を結成し、戦略研究で培った行政・保健所等との連携やMSMへの介入手法を再構築し、MSMのHIV抗体検査受検行動を促進する「ヤロープロジェクト」を展開した。プロジェクトは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県を介入地域とし、①エイズ対策事業に関する行政・保健所との意見交換会、②保健所等のHIV抗体検査担当者への研修会、③支援・相談体制の整備としてのウェブサイト「HIVマップ」の運営、④新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜のMSMを対象としたHIV抗体検査普及のための冊子「ヤローページ」の作成と普及を実施している。
- 3) 首都圏の戦略研究で保健所等のエイズ担当者を対象としたHIV検査場面におけるMSM受検者への対応に関する研修は、NPO法人ぷれいす東京(現代表)が中心となってプログラムを構築した。そのノウハウを活用して戦略研究後も首都圏の保健所等への研修をNPO法人aktaと共に継続し、さらに仙台市、沖縄県、愛媛県、長野市にも同様の研修会を拡げた。
- 4) 阪神圏の戦略研究においてMSM向けのクリニック検査キャンペーンを実施した際に得られたノウハウは、現在もHIV感染の拡大阻止に向けた大阪府の施策や国の研究班の活動に活かされている。戦略研究においてMSM向け検査キャンペーンの広報を担当した、近畿地域の非営利活動団体「MASH大阪」は、得られたノウハウを用いて大阪府のMSM向け検査事業を受託し、地域のHIV感染対策に積極的に取り組んでいる。MSM向けHIV検査キャンペーンの成果は、大阪府地域医療再生基金事業「男性同性愛者向けHIV検査・相談事業」として大阪府の施策へ活用されている。
- 5) 戦略研究において組織された電話相談「サポートライン関西」、陽性者支援プログラム「ひよっこクラブ」は国からの委託事業としてNPO法人CHARMが受託した。その広報資材は陽性者支援団体「Follow」の広報資材とあわせて大阪府が実施する確認検査の陽性時の報告書に同封され、多くのHIV陽性者に届けられる状況となっている。
- 6) 首都圏のゲイコミュニティへの介入研究に関わった流動研究員4名のうち2名は、戦略研究終了後も公益財団法人エイズ予防財団に籍を置きつつコミュニティセンターaktaを軸にした戦略研究後のMSMへのHIV感染対策に貢献している。戦略研究で培った首都圏自治

- 体・保健所との連携による HIV 検査促進プログラム「ヤロープロジェクト」の実施、「HIV マップ」の運営、HIV 検査担当者への研修会実施、首都圏のゲイコミュニティへの資料配布による啓発を継承している。
- ・また他の 1 名は、沖縄にて LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）などの性的少数者が生きやすい社会を広げて行くために活動する非営利団体レインボーアライアンス沖縄を結成し、沖縄の MSM への HIV/AIDS 対策に関わっている。
- 7) 阪神圏で流動研究員として雇用され、MASH 大阪でスタッフとして活動した 2 名は、戦略研究終了後も公益財団法人エイズ予防財団に籍を置きつつ MASH 大阪の中核を担うスタッフとして活動を続けた。うち 1 名は現在、国立大阪医療センター付エイズ予防財団職員として活動を継続し、大阪地区の MSM 向け検査環境向上に貢献している。
- 8) 阪神圏で電話相談「サポートライン関西」、陽性者支援プログラム「ひよっこクラブ」を構築した流動研究員は、これらが厚生労働省委託事業として NPO 法人 CHARM が受託したことで、この事業を担当し電話相談の対応、相談員育成、自治体、保健所、医療機関、NGO 等の関係機関との調整などに関わっている。
- 9) 戦略研究で調査研究、NGO による介入計画の調整と実施に関わった流動研究員 (3 名) は MSM 対策研究班の研究費により雇用され、名古屋市立大学において戦略研究後の成果分析および新規研究の実施に関わり、成果の公表、国内外の学会発表、論文発表に関わっている。特に、戦略研究で保健所等の HIV 検査受検者を対象としたアンケート調査の実施と評価分析を経験したノウハウを活かし、MSM 対策研究班では、8 都府県 11 自治体 (沖縄県、東京都、愛知県、名古屋市、大阪府、大阪市、神奈川県、横浜市、千葉県、福岡市、仙台市) の保健所等公的 HIV 検査機関 (82 施設) で、受検件数の動向と受検者アンケートを実施し、その結果を自治体のエイズ対策担当者や NGO に還元して MSM の HIV 検査促進に携わっている。
- 10) 戦略研究で推進室業務および MSM を対象とした普及啓発に携わった流動研究員は、戦略研究終了後に公益財団法人エイズ予防財団のリサーチレジデントとして、国立国際医療研究開発センター、エイズ治療・研究開発センターに派遣され、MSM 関連研究業務に携わっている。また、戦略研究終了後に事業化された検査促進事業について部分的に関わり、首都圏グループと共に自治体・保健所等と情報交換を行い、時に医療現場からの情報提供等を行っている。またモンゴル国の男性同性愛者の HIV 新規感染率が減少に転じるかどうかを評価する研究に携わっている。この研究は、平成 25 年度より国立国際医療研究開発センター、エイズ治療・研究開発センターと名古屋市立大学、モンゴル NGO、国立感染症病院の共同研究として開始され、現在 MSM コホートの形成と感染率のモニタリングを実行中である。

【当該研究を通じて構築された機関、専門職、地域資源等のネットワークの研究終了後の状況】

- 1) 戦略研究の実施団体であった公益財団法人エイズ予防財団は、戦略研究終了後に事業化された「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業（コミュニティセンター事業）」の実施団体となり、全国 6 地域の MSM を対象としたエイズ対策を担っている。戦略研究を実施していた研究者、研究協力者、支援組織とのつながりやノウハウが、戦略研究終了後も財団内で継承されている。また、エイズ予防財団が行う啓発の対象は、国民一般に加えて MSM へも重点が置かれるようになった。国民一般に向けた啓発キャンペーンでも、そのメッセージを受け取る国民の中に、HIV の感染リスクにさらされている MSM がいることを念頭におき、男性同性愛者の人権に配慮した啓発ポスターが作成されている。この背景には、戦略研究で MSM を対象とした研究の実施団体になったことにより MSM の理解が深まったこと、戦略研究を通じて HIV 陽性者団体との交流が図られるようになり、啓発を受け取る当事者の目線に配慮しながら啓発を企画実行できるようになったことが挙げられる。
- 2) 戦略研究で MSM に向けた HIV 検査促進の介入に中心にかかわった首都圏の NPO 法人ふれいす東京と NPO 法人 akta (旧 Rainbow Ring)、および阪神圏の MASH 大阪、NPO 法人 CHARM、そして調査分析に関わった研究者や流動研究員は、戦略研究で構築したネットワークを、厚生労働省エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」において継続した。
- 3) 首都圏の NPO 法人ふれいす東京と NPO 法人 akta (旧 Rainbow Ring) は、厚生労働省エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」班と「MSM 首都圏グループ」を結成し、戦略研究で培った自治体・保健所等、ACC などのエイズ治療機関とのネットワーク、MSM が利用する商業施設等とのネットワークを活かして、MSM へのエイズ対策に取り組んでいる。また、戦略研究で支援・相談体制の整備として構築されたウェブサイト「HIV マップ」は厚生労働省委託事業として現在は NPO 法人 akta が受託して運営しているが、これについても NPO 法人ふれいす東京や研究班が協力して、その有用性の向上を図っている。
- 4) 阪神圏では、自治体の施策担当者、研究者、保健師、カウンセラー、ソーシャルワーカー、NPO、CBO 等の連携が戦略研究で構築され、必要に応じた連携が戦略研究後も続けられている。また HIV 検査の際に陽性とわかった場合の支援に関する情報も含めて広報する取り組み、及び陽性結果と共に支援情報の資料を配布する取り組みは、戦略研究後も MASH 大阪、CHARM、大阪府公衆衛生研究所の連携によって継続している。
- 5) 大阪地域在住の MSM に対し HIV 感染に関して予防と検査に関わるプログラムを提供する専門職者がセクターを越えたネットワークを構築する場としてプロフェッショナル・ミーティングが持たれるようになった。クライアントが望む受検環境をともに模索する研修会が 2012 年と 2013 年に計 3 回行われ、参加者総数 82 名（発表者 9 名、スタッフ 13 名、参加者 60 名）、のべ 39 機関の参加があった。
- 6) 阪神圏ではクリニック検査キャンペーンが大阪府「地域医療再生基金事業」により継続され、MSM に対して受検しやすい HIV/STI 検査受検機会を提供している。また、検査前後の不安へのサポート、HIV 陽性者への支援プログラム (NPO 法人 CHARM による HIV サポートライン関西の電話相談) も継続しており、検査と相談支援の連携ができています。

行政的観点からの評価

	<p>当該研究において、HIV 感染リスクが高いことが懸念されながらもアウトリーチが困難である MSM に対し、NGO 及びコミュニティセンターを介したアプローチ手法を新たに開発した意義は大きいものと考えられ、厚生労働省ではこれを受けて平成 23 年度より予算事業としてコミュニティセンター運営を行っている。今後、さらに各介入手法の効果が明らかとなれば、一定の効果が得られた手法を行政施策に活用し、HIV 感染の抑制に繋がることが期待される。</p>
総合評価	<p>複数のアプローチによる介入を並列的に実施することで、従来アウトリーチが難しいとされた対象への介入を成功させている。</p> <p>戦略研究終了時点では介入対象地域によって成果にばらつきがあったが、戦略研究終了後もコミュニティセンターによる事業継続を果たしており、戦略研究終了時点で有意な成果を得られなかった地域においてもエイズ患者の増大抑制・低減に貢献したと考えられる。</p> <p>2007 年以降、首都圏、阪神圏ではエイズ患者数はほぼ横ばいとされており、本研究及びその後の事業も一定の貢献をしている可能性がある。今後本研究において得られた知見、体制等のエイズ患者数動向に対する影響を分析すること等などを通じて現在まで続けてきたコミュニティセンターによる取組の継続、意義の周知等を図っていくことが望まれる。</p>



# エイズ予防のための戦略研究

## -3年後評価-

### 課題1

## 首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV抗体検査の普及強化プログラムの 有効性に関する地域介入研究

主任研究者 木村哲(公益財団法人エイズ予防財団理事長)

推進室長 岡 慎一(国立国際医療研究センター  
エイズ治療研究開発センター長)

研究リーダー(課題1)

市川誠一(名古屋市立大学看護学部)

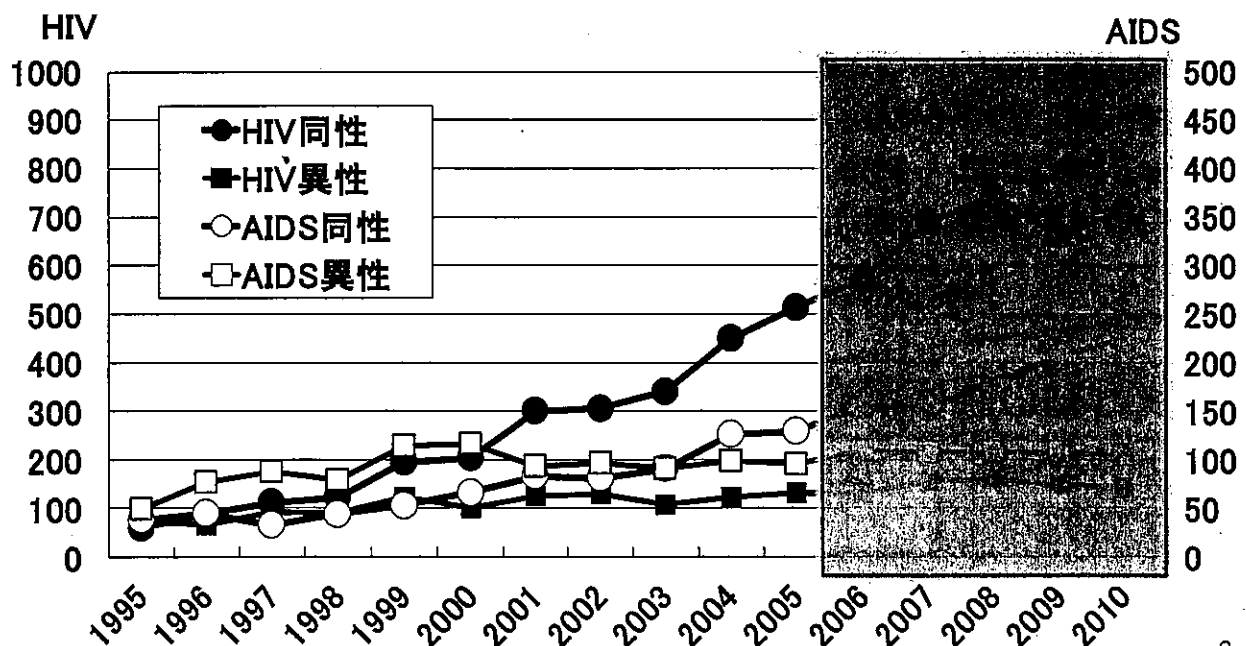
1

## エイズ戦略研究の背景

### HIV感染者・AIDS患者(日本人男性・感染経路別)

日本の2005年の現状は、感染者の約20%しか検査を受けていない

- 発症するまでHIV感染症が放置されている
- せっかくのHAARTを受けられず発症
- 行動変容がなく、HIVの伝播が抑えられない
- その結果HIVとAIDSが持続的に増加



2

# エイズ予防のための戦略研究 課題1

試験期間:

平成19年10月～

平成22年12月

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としたHIV抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

- 成果目標:
- MSM(男性と性行為を有する男性)のHIV抗体検査受検者数を2倍に増加させる
  - MSMのAIDS発症者数を25%減少させる

目的: 男性同性愛者を対象に、効果的な啓発普及・広報戦略を策定し、HIV抗体検査受検者数・AIDS発症者を指標として、その効果を検証する。

対象: MSM

- 1) 啓発普及
- 2) 検査機会の拡大
- 3) 相談体制の整備

介入地域:

首都圏: 東京・神奈川・千葉  
 阪神圏: 大阪・京都・兵庫

HIV抗体検査  
 受検者数増加

HIV感染の  
 早期発見

医療機関  
 への受診

エイズ患者の減少

新規感染者の減少

3

## MSM首都圏グループ 研究の概要

- MSM対象 ゲイNGOによる広報キャンペーン  
 (キャンペーン企画, 資材・グッズ制作, 普及・広報)  
 2009年～エイズ発症予防「できる! キャンペーン」
- ゲイタウン広報: ミーティング/バー向け季刊誌発行  
 TOMARI-GI, TOMARI-GI café EVENT
- 様々なゲイ関連グループとのコラボレーション  
 ゲイサークル, クラブイベント, ハッテン場, 東京パレード等
- メディアとのコラボレーション  
 ゲイメディア(雑誌, web), TOKYO FM

Powered by  
**CREAL**  
 LIVING TOGETHER  
エイズ予防のための戦略研究, MSM対象者グループ

- 相談支援体制  
 ・Webや紙媒体での相談支援情報発信  
 HIVマップ、お役立ち情報
- 検査支援体制  
 ・検査従事者への研修  
 ・検査機関確保と周知  
 ・MSM向けHIV検査情報  
 あんしんHIV検査サーチ  
 (定点保健所等の広報)

受検行動の促進

受検行動の評価調査 ・受検件数調査 ・受検者アンケート

○定点保健所等  
 37施設

○定点以外の保健所等  
 41施設

○クリニック  
 9施設

- 評価: MSM定点保健所(37施設)と定点以外保健所の比較
  - ・受検件数の動向
  - ・アンケート調査からMSM受検者の動向
  - ・受検者のMSM対象広報資材の認知率
  - ・陽性割合

エイズ発症者

首都圏地域

同性間患者数

推計値

との比較

# MSM阪神圏グループ 研究の概要

- MSM対象 ゲイNGOによる広報キャンペーン  
「STDクリニック検査キャンペーン」2008年—2010年
  - ・商業施設利用者への映像啓発資材による広報普及
  - ・インターネット利用者へのポータルサイトとMSM向けのHIVを含むSTIとセーフアセックスに関する情報サイト
  - ・商業施設非利用者に対する介入プログラム
- 公共空間における受検行動促進啓発イベント  
『PLuS+2006-2009』『PLuS+final』  
(参加者およそ6000人/回、内MSM60%)



- 相談支援  
陽性者支援のための電話相談体制「POSP」
  - ・webや紙媒体での広報
  - ・陽性者支援事業

- 検査支援体制
  - ・検査従事者の研修
  - ・MSM向けHIV検査機会の確保と情報提供
  - ・定点7医療機関の広報

受検行動の促進

受検行動の評価調査・受検件数調査・受検者アンケート		
○保健所等 29施設	○定点クリニック 7施設	○定点以外のクリニック 5施設
○評価：MSM定点クリニック（7施設）の介入前後の比較 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受検件数の動向</li> <li>・アンケート調査からMSM受検者の動向</li> <li>・受検者のMSM対象広報資材の認知率</li> <li>・陽性割合</li> </ul>		

**エイズ発症者**  
阪神圏地域  
同性間患者数  
推計値  
との比較

## 最終結果の概要

**エイズ予防のための戦略研究 課題1**  
**首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした**  
**HIV抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究**

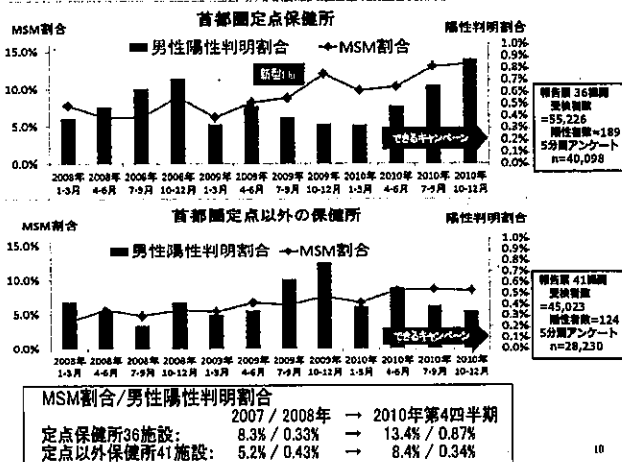
<b>5 評価項目</b>	
4.1 主要評価項目	(1) 定点保健所・公的HIV検査機関、定点医療機関でのHIV抗体検査件数 (2) HIV診断時におけるMSMのAIDS発症者数
4.2 副次的評価項目	(1) MSM受検者のうち本研究で開発・普及した啓発・広報戦略に曝露された割合 (2) MSM集団におけるHIV抗体検査の生涯受検率と過去1年間の受検率 (3) 検査機関で陽性が判明した感染者への結果通知割合、医療機関受診割合 (4) 陽性割合
4 研究期間	研究期間 2006年11月～2011年3月 試験期間 2007年9月～2010年12月

7

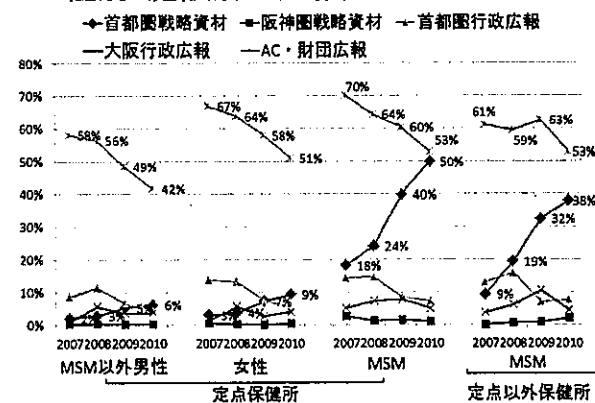
**最終成果の概要 (首都圏)**

主要評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年の新型インフルエンザ流行が保健所等の受検件数に影響を及ぼし、全検査件数は減少し横ばいとなった。</li> <li>一方、首都圏では定点保健所で受検者に占めるMSM割合は上昇した。</li> <li>・首都圏の2010年のエイズ患者報告数(69件)は推計値(82.2)より16.1%低い。</li> </ul>
副次的評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受検者(87,531件)中のMSM割合は(図1)、定点保健所36施設では8.3%(2007年)→13.4%(2010年)に上昇、定点以外保健所41施設では5.2%→8.4%であった。</li> <li>・HIV陽性割合は(図1)、定点保健所の男性で0.33%(2008年)→0.87%(2010年)と2.6倍上昇した。</li> <li>・啓発資材認知割合は(図2)、定点保健所では18.2%(2007年)→49.9%(2010年)と2.7倍上昇、非定点保健所も9.3%(2007年)→37.9%(2010年)に上昇。</li> <li>・首都圏NGOの啓発資材とその普及活動は、MSMに対して訴求性が高く、定点保健所にMSMを誘導した。</li> </ul>

**図1 首都圏の定点および定点以外の保健所 -男性陽性判明割合・MSM割合の四半期ごとの推移-**



**図2 首都圏保健所のHIV検査受検者における性別・施設別の広報資材認知割合**



# 最終成果の概要 (阪神圏)

主要評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年の新型インフルエンザ流行が保健所等の受検件数に影響を及ぼし、全検査件数は減少し横ばいとなった。</li> <li>一方、阪神圏では定点クリニックで受検者に占めるMSM割合は上昇した。</li> <li>・阪神圏の2010年のエイズ患者報告数(57件)で、推計値(31.3)より82.1%高い。</li> </ul>
副次的評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受検者中のMSM割合は、保健所受検者(25,440件)では、12.1%(2007年)→9.1%(2010年)と変化はなかった。</li> <li>・定点クリニック受検者(3,405件)中のMSM割合は(図3)、6.0%(2007年)→23.1%(2010年)と、およそ4倍に上昇した。</li> <li>・クリニック検査キャンペーンのMSM受検者は580件、HIV陽性率が5.5%と高く(図3)、早期検査・早期治療に有用。</li> <li>・阪神圏資材の認知割合は、保健所受検者のMSMでは、7.6%～13.9%と低かったが、定点クリニックのMSM受検者の資材認知割合は(図4)、0.0%(2007年)→37.2%(2010年)に上昇した。</li> </ul>

図3 阪神圏定点クリニックにおける受検者数、MSM受検者数、MSM割合の推移

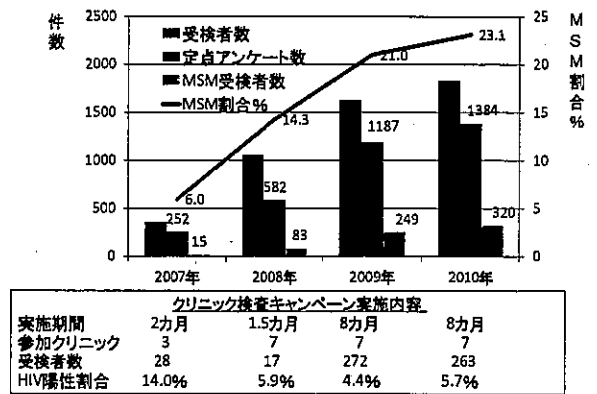
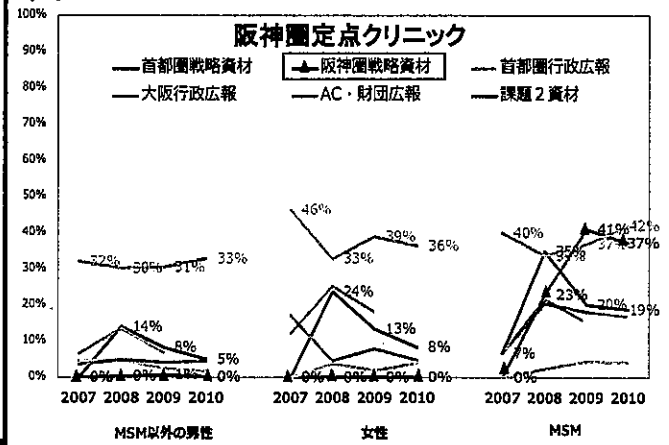




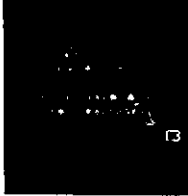

図4

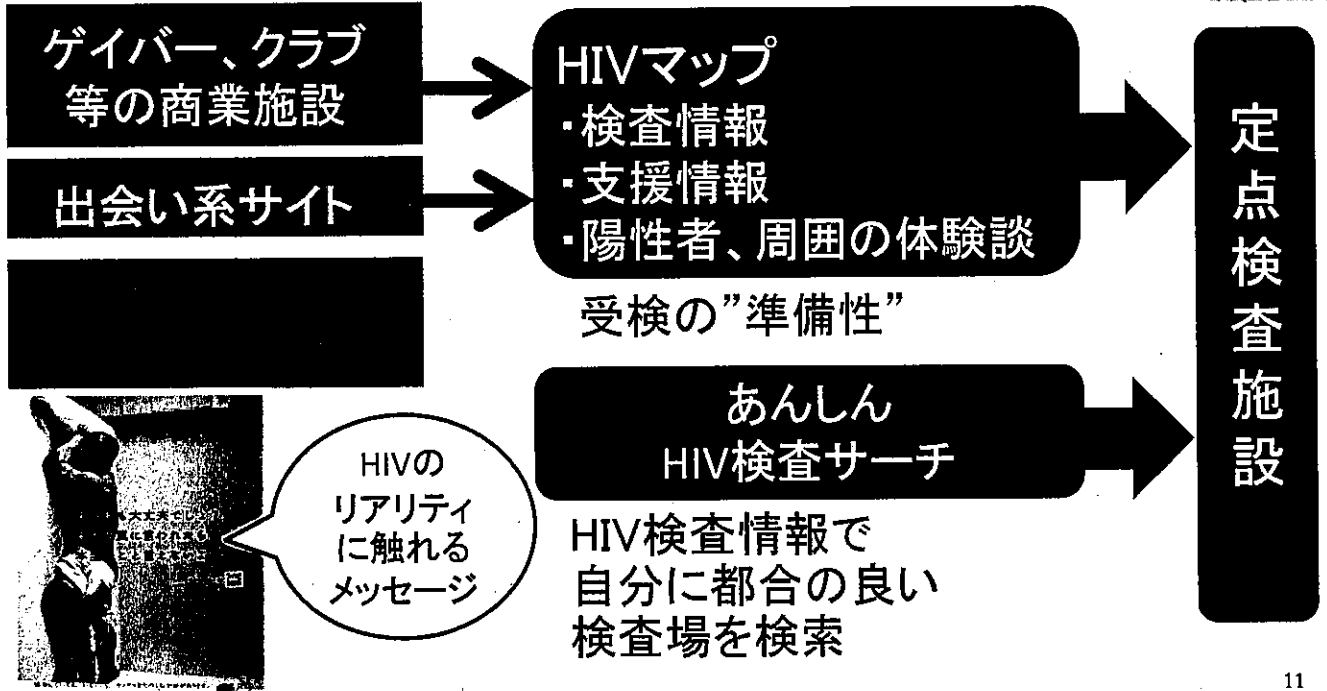


# 最終成果の概要-MSM集団における受検行動-

副次評価項目	首都圏	阪神圏
MSM集団におけるHIV抗体検査生涯受検率と過去1年間の受検率	同性愛者等が利用するバー顧客対象にアンケート調査を2008年、2010年に実施	大型イベントPLUS+会場でRDS法による携帯電話調査を2007～2009年に、バー顧客調査を2010年に実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去1年間に、保健所・保健センターでの受検が最も高い。 2008年37.8%→2010年45.6%に上昇</li> <li>・「できる！」キャンペーン4種のポスター認知群は、非認知群に比べて、生涯および過去1年の受検率が高く、新規受検者の増加が示唆された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RDS携帯電話調査</li> <li>・生涯の検査受検経験率 2007年56.7%→2009年68.2%に上昇</li> <li>・過去1年の受検経験率 2007年31.5%→2009年37.6%</li> <li>・最近の受検場所として、クリニックは、 2007年2.9%→2008年7.4%→2009年11.1%に上昇</li> </ul>

# 首都圏のエイズ発症予防「できる！」キャンペーン

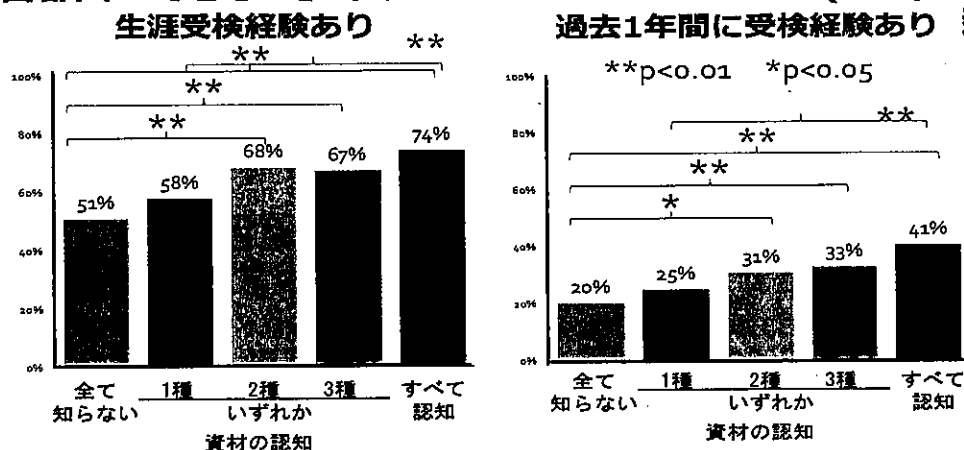
Safer SEX できる! 6-7月  検査がすぐできる! 8-9月  相談できる! 10-11月  エイズ発症ストップできる! 12-1月 



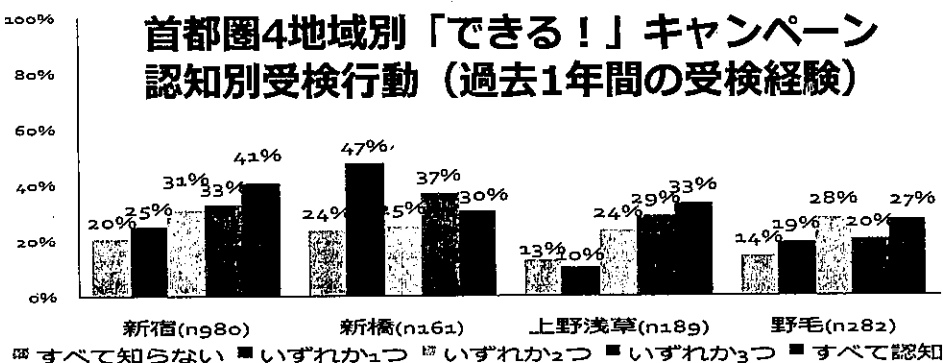
## 首都圏のMSM集団におけるHIV検査受検行動「できる！」キャンペーン認知別受検行動の比較

- バー顧客を対象とした質問紙調査2010 -

### 首都圏「できる！」キャンペーン認知別受検行動(生涯/過去1年間の受検経験)



・首都圏のMSM集団における生涯の受検経験および過去1年間の受検経験割合は、「できる！」キャンペーン4種のポスター認知群が非認知群に比べて高く、新規受検者の増加が示唆された。



・過去1年間の受検場所は保健所等が最も高く、37.8%(2008年)→45.6%(2010年)に上昇した

# MSMのHIV検査行動に影響を及ぼす要因を解析 — バー顧客調査から —

## ○HIV検査行動と受検意図に関連する要因

### ・受検経験に強く影響していた要因

「知識正答数」「STI既往歴」「ゲイ」「コンドーム常用」  
「ゲイナイト利用」「恋人とのHIV対話経験」

### ・受検意図に最も強く影響していた要因

「STI既往歴」  
「友達とのHIV対話経験」「HIV感染者の身近感」

\* 塩野徳史、金子典代、他：MSMにおけるHIV抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究、日本公衆衛生学雑誌、2013、60(10)、639-650

## 戦略研究で展開した“Living together”プログラム：

HIVについて友人との対話経験が高い。

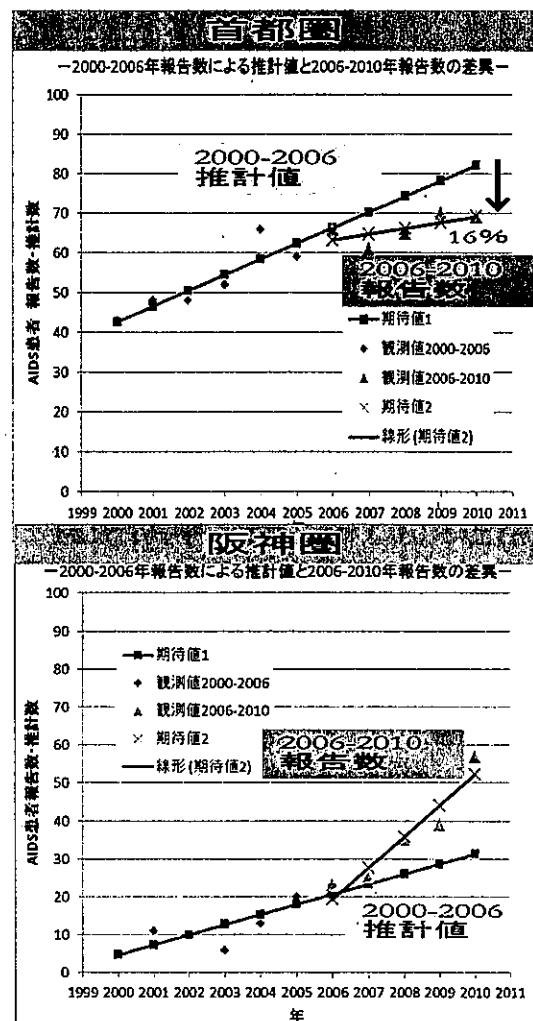
HIV陽性者の身近感が促進される。

→ HIV感染に関するリアリティが促進される。

13

## 最終結果の概要 (3)

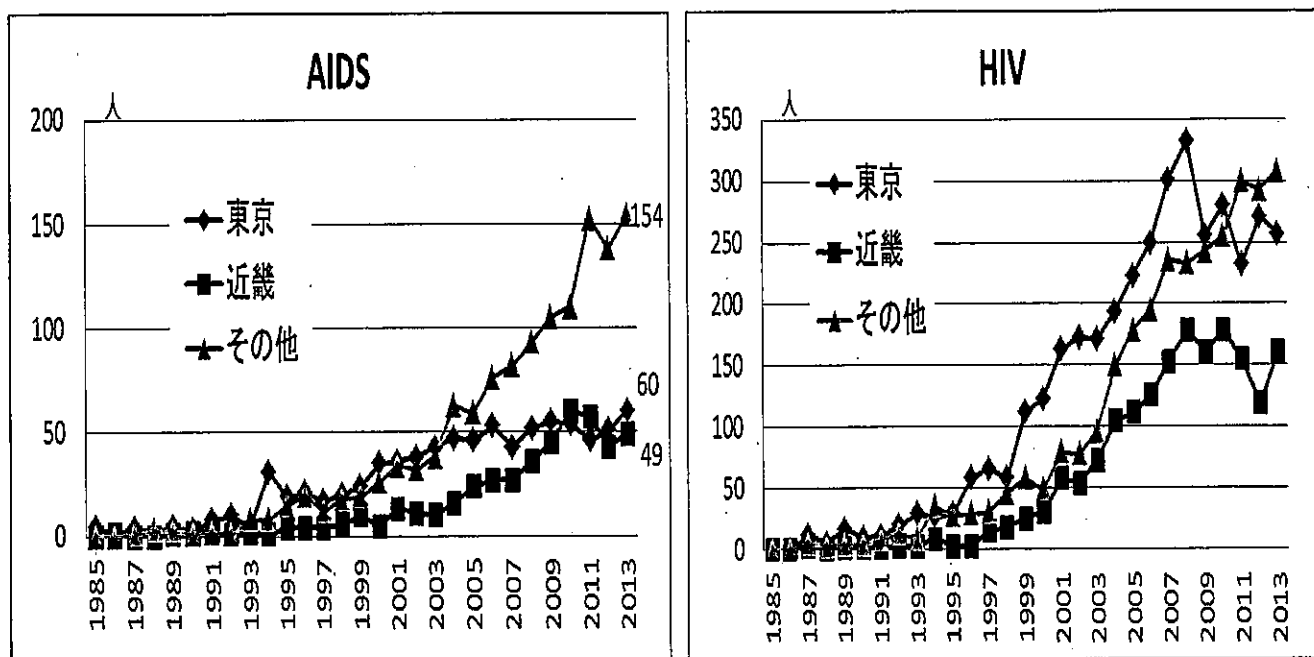
主要評価	首都圏	阪神圏
(2) MSMのAIDS発症者数(付図④)	・同性間感染のAIDS発症者数は2000年から2006年までの報告値に基づく推計値(最小二乗法)と比較した。	
	・首都圏の2010年の報告数は69件で、推計値82.2より16.1%低かった。	・阪神圏の2010年の報告数は57件で、推計値31.3より82.1%高かった。
	・関東および近畿地域以外の対照地域の2010年の報告数は88件で推計値73.9より19.1%高かった。	
	・2010年のAIDS発症者数は、検査キャパシティのある保健所にMSMを誘導した首都圏で16%減少となっていた。	



14

# 日本国籍男性同性間のHIV・AIDS報告数の年次推移

(厚生労働省エイズ動向年報、2013年12月31日)



15

## 結果の概要(まとめ)

### 専門的・学術的観点からの成果

・首都圏、阪神圏のMSM(男性と性行為をする男性)を対象に当事者NGO参加型体制でHIV検査促進の啓発プログラムを実施し、有効性を評価した。協力保健所や医療機関の受検者アンケートはMSM受検者の動向を初めて把握し、NGOの広報資材認知がMSM受検者のみで高く、訴求性のあることを示した。首都圏のエイズ発症予防「できる！」キャンペーンはMSMの過去1年の受検経験割合を上昇させ、2010年エイズ報告数は推定値の16.1%に減少した。阪神圏では定点医療機関がMSMの検査の受皿となり陽性率は5%と高く早期検査・早期診療の場としての有効性が示された。

### 研究推進に当たって明らかになった問題点・課題

HIV抗体検査に対する地方行政の関わりの差が、戦略研究の受け皿の確定に影響した。このことは、メインアウトカムの差につながった可能性もある。一般的なキャンペーンでは、リスクの少ない若年女性が検査に集中し、リスクグループの検査機会がかえって減ることもあった。MSMを対象とする場合の訴求性の高いプログラムの重要性が認識された。

保健所の検査体制は、一般対象の検査キャンペーンによる予約のオーバーフローや新型インフルエンザ流行による検査件数の減少など脆弱性が明らかとなった。



## 【研究の波及効果(学術的・国際的・社会的)】

### 1) Hard to reach層への取り組みの拡大

首都圏では戦略研究まで殆どエイズ関連の啓発介入がなかった地域(上野・浅草、新橋、渋谷)で啓発活動を展開した。阪神圏では、6000人規模の大型イベントを毎年開催し、MSMの中でもHIV/AIDSに無関心な層を呼び込んだ。Hard to reach層であるMSMへの介入を拡大した当事者NGOの社会的意義は大きい。

### 2)当事者NGO、研究者、保健所等の関係機関が協働する研究体制

首都圏では検査キャパシティの高い保健所、阪神圏ではクリニックと、MSMが受検しやすい検査機関等を確保し、検査行動を促進させた。当事者NGO、研究者、自治体・保健所等の関係機関が協働する研究体制は、検査や予防介入に関する啓発普及、その効果評価を連動させて取り組むことの有効性を明確にした。今後のエイズ対策の展開に重要な成果が得られており、社会的意義が大きい。

### 3)脆弱性の高い性産業従事者やIDUなど他の個別施策層にも有用

HIVマップ、検査担当者へのMSM対応の研修会、陽性者支援のための電話相談、阪神圏のMSM対象のクリニック検査、イベント会場での即日検査体制などは、他地域でのMSMを対象とした検査促進の参考となる。これらの手法は脆弱性の高い性産業従事者やIDUなど他の個別施策層にも有用であり、一般化できる。

### 4)HIV検査機関のHIV検査受検者の動向と検査事業の評価

保健所・公的検査機関でのHIV検査受検者の動向や受検者層の把握は 予防啓発や早期検査・早期治療のエイズ対策効果を把握する上で有用であり、本研究で開発した調査法は今後のエイズ対策に活用できる。

17

## 【関連研究の最新の進捗状況】

戦略研究後の取り組みに関連した項目は省略

### 1)MSMの人口規模とHIV感染リスク行動

成人男性(20~59歳)に占めるMSMは4.6%で、商業施設を利用するMSMは非利用MSMに比べて性感染症既往割合、コンドーム非常用割合が高く、HIV感染リスク行動が高い。商業施設を介した啓発介入が今後も必要である。

MSMの人口規模を出生年別に求め、出生年別のHIV感染者発生数の推移を推定したところ、20歳代の若年層での増加が著しい。全国的にMSMへの感染対策の強化が望まれる。

### 2)アジアのMSMにおけるHIV感染拡大ーモンゴル、中国への研究協力

タイ、中国、台湾をはじめとするアジアでは、MSMにおけるHIV感染が拡大している。人口規模で日本のおよそ1/6の台湾は日本を超える報告数となっている。

MSMの国内移動、国外移動に伴うHIV感染への対策が必要で、当事者NGOと研究者および保健医療職者が協働した戦略研究は、MSMへの偏見・差別が強いアジア地域の参考となる。

#### ・モンゴル国のMSMにおけるHIV感染対策

戦略研究のHIV啓発の手法をモデルとして、戦略研究に関わった研究者が、モンゴルのNGO、国立感染症病院の医師とともに啓発活動に関わり、継続的にその活動を支援している。WHO、UNAIDS、モンゴル保健省が関心を寄せている。

#### ・中国CCDC、シンセン市CDCのMSMのHIV感染対策

CCDC所長の要望により、日本のNGOとの協働研究を、CCDCおよびシンセン市CDCにて発表した。また、2013年度の研究班会議に中国の研究者とNGOが参加し、東京、大阪のコミュニティセンター訪問、NGOとの情報交換をした。

18

# 研究成果の社会への説明や施策への活用状況

## 1) 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針 (以下、予防指針)

予防指針(平成24年1月19日厚生労働省告示第21号)では、①個別施策層、特にMSMに対する重点的かつ計画的な施策を実施すること、②施策の実施にあたっては、国、地方公共団体、医療関係者およびNGOの連携を強化することが盛り込まれた。MSMへの計画的、重点的な施策の実施、NGOとの連携、検査・相談体制の充実は、MSMを対象に受検者の増加とエイズ発症者の抑制を目標とした戦略研究の柱であり、その取り組みが予防指針に反映される形となった。

・厚生労働省エイズ予防指針作業班第3回会議/2011年2月

## 2) 厚生労働省重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

HIV感染者、エイズ患者の報告数が多い自治体を対象に行われている協議会において、戦略研究を中心としたMSMへの取り組みが紹介された。

・重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会/第6回、第7回資料掲載

## 3) 戦略研究の啓発拠点および開発実施された事業の継続

コミュニティセンターaktaおよびdistaは、他の4地域のコミュニティセンターと共に厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」として事業化された。また、MSM向けHIV総合情報サイト「HIVマップ」、相談窓口としての「HIVサポートライン関西」「ひよっこクラブ」は、厚生労働省委託事業として継続された。予防指針には個別名称は記載されていないものの積極的な事業の活用が記されている。

## 4) 大阪府のクリニック検査キャンペーン事業化

大阪府ではクリニック検査キャンペーンを「地域医療再生基金事業」により戦略研究後も継続した。また、大阪府・市では、保健所等のHIV検査受検者アンケートを継続し、MSM受検者の割合を指標として、MSMの受検動向を評価している。

19

## 【当該研究もしくは関連研究に関する国内外の学術誌等の論文および国内外での学会報告】

	報告数	備考
当該研究もしくは関連研究に関する国内外の学術誌等に対する投稿論文	欧文誌： 5編  和文誌： 5編	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sexual Health, 8(1), 123-124, 2011</li> <li>HIV Australia, 9(3), 40-43, 2011</li> <li>Intersections, Issue 26, Aug, 2011</li> <li>Journal of Medical Virology, 85, 1046-1052, 2013</li> <li>厚生指針, 58(13), 12-18, 2011</li> <li>日本公衆衛生雑誌, 58(7), 501-514, 2011</li> <li>日本エイズ学会誌, 14(2), 99-105, 2012</li> <li>日本エイズ学会誌, 15(2), 119-127, 2013</li> <li>日本公衆衛生学雑誌, 60巻(10号), 639-650, 2013</li> </ul>
当該研究もしくは関連研究に関する国内外での学会等報告	国際学会： 11題 内シンポジウム 2題	<ul style="list-style-type: none"> <li>The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011 (3)</li> <li>The 16th International AIDS Conference, Washington DC, U.S.A., 2012 (1)</li> <li>The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology, Shimane, Japan, 2012 (1)</li> <li>The 4th JAPAN-KOREA Joint Symposium on HIV/AIDS, Tokyo, 2012 (1)</li> <li>The 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand, 2013 (3)</li> <li>The 11th Taipei International Conference on HIV/AIDS, Taipei, September, 2013</li> </ul>
	国内学会： 51題 内シンポジウム 8題	<ul style="list-style-type: none"> <li>第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京 (17)</li> <li>第53回日本社会医学学会総会, 高槻市, 2012 (1)</li> <li>日本性感染症学会第25回学術大会, 2012, 岐阜 (3)</li> <li>第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012 (19)</li> <li>第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013 (10)</li> <li>神奈川性感染症学会・HIV検査シンポジウム, 2011年 (1)</li> </ul>

20

# 【当該研究の成果を踏まえた一般及び政策担当者等を対象とした講演等の実施状況】

## 1)公開シンポジウム：エイズ予防のための戦略研究-その取り組みと成果

第25回日本エイズ学会学術集会・総会共催シンポジウム、東京、2011年12月(対象:学会員,一般)

## 2)エイズ対策研究推進事業研究成果等普及啓発事業・研究成果発表会

AIDS at 30 (エイズの発見から30年)、2011年12月、エイズ予防財団主催、(対象:一般公開)

## 3)国立保健医療科学院・特定研修エイズ対策研修における発表

全国から集まる自治体、保健所の保健師等のエイズ対策担当者が対象  
年1回の研修会で、3年間で延べ11講座を実施

## 4)戦略研究で開発した保健所等のMSM対応に関するエイズ対策研修

東京都保健所等のHIV検査担当者研修会(毎年)、神奈川県保健所等のHIV検査担当者研修会(毎年)、千葉県保健所等のHIV検査担当者研修会(毎年)、埼玉県保健所等のHIV検査担当者研修会(2011から毎年実施)。さらに仙台市、沖縄県、愛媛県、長野市にも同様の研修会を拡げた。

## 5)自治体・保健所、財団等のエイズ対策研修会・講習会等での発表

神奈川県保健所長会(対象-保健医療職者)、名古屋市/名古屋市医師(市民公開)、大阪市・感染症対策にかかる保健師研修(保健医療職者)、大阪府・大阪市HIV陽性者支援研修会(陽性者支援者・団体等)、エイズ予防財団HIV検査相談研修会(全国保健所保健師、検査技師、病院検査技師等)、東京都エイズボランティア講習会(NGO/NPO,保健医療職者)、小諸佐久HIV診療ネットワーク研究会(医師、看護師、行政職員、養護教諭)など

## 6)公開講演会,講習会での当該研究・関連研究の発表(11回)

一般市民、小・中・高等学校の養護教諭,保健師等、保健医療職者)

## 7)テレビ等での報道

NHK教育テレビ「ハートをつなごう」-HIV/エイズを取り巻く環境、2012年11月28-30日(再放送あり)

21

## 戦略研究後の取り組み

# 戦略研究で開発、実施されたプログラム等の その後の活用について -首都圏-

## (1)MSM首都圏グループによる取り組みの継続

NPO法人ぷれいす東京、NPO法人akta、MSM対策研究班は、戦略研究時の協働体制を「MSM首都圏グループ」として継続、地域の行政・保健所等、医療機関と連携し、MSMのHIV抗体検査受検行動を促進する次のプロジェクトを展開した。

①自治体等とのエイズ対策事業に関する意見交換会、②保健所等のHIV抗体検査担当者への研修会、③支援・相談体制ウェブサイト「HIVマップ」、④首都圏のMSMを対象としたHIV抗体検査普及のための冊子「ヤローページ」普及、⑤保健所等の受検者アンケート調査。

## (2)保健所等のHIV検査担当者研修会の継続と実施地域の拡大

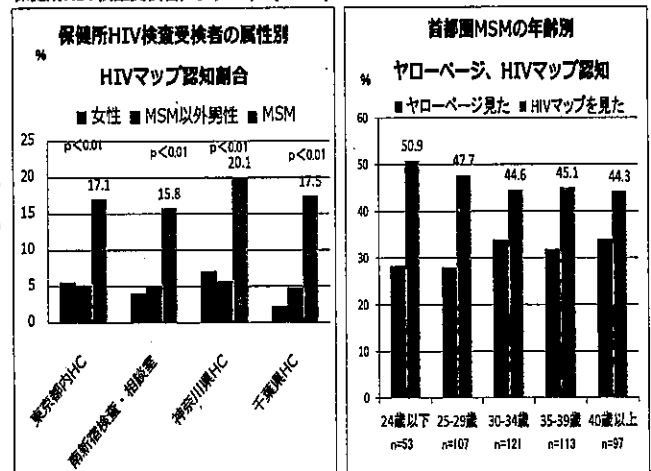
保健所等のHIV検査担当者を対象としたセクシュアリティ理解、MSMやHIV陽性者への対応に関する研修会を継続した。東京都、神奈川県、千葉県に加え、埼玉県、仙台市、沖縄県、愛媛県、長野県でも実施。

## (3)支援・相談体制Webサイト・HIVマップの継続

厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業～同性愛者等向けホームページによる検査相談等情報提供」として継続。

## MSMにおけるHIVマップの認知

保健所HIV検査受検者アンケート (2013) 首都圏MSMのGCQアンケート2013



出典: H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業、MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究(代表市川第一)

# MSM首都圏/検査体制・「あんしん」プロジェクト

保健所等のHIV検査担当者を対象としたセクシュアリティ理解、MSMやHIV陽性者への対応に関する研修会



### 行政と地域の連携 保健所職員研修

東京都、横浜市、神奈川県、千葉県などと共催  
 > 2008年、2009年、2010年  
 ・HIV抗体検査に関わる保健所職員対象の研修を企画。また、人材を提供。多様なMSMのありように触れてもらう機会を提供。全員参加のロールプレイを実施。役者は、全員ゲイのスタッフが担当。



### 松山市



戦略研究後も、東京都、神奈川県、千葉県で継続、また埼玉県、仙台市、沖縄県、長野市、愛媛県松山市（中四国地方）でも実施。  
 2014年度も継続しており、新たに岡山県なども加わってきている。

# 保健師(HIV検査担当者)研修会 -MSM首都圏グループと行政との連携-

## ● MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県
福祉保健局 健康安全室感染症 対策課エイズ対策係	保健福祉局健康医療部 健康危機管理課 感染対策グループ	千葉県保健福祉部 疾病対策課 感染対策室	埼玉県保健医療部 疾病対策課 感染対策担当
2011年6月17日 都庁第一庁舎 参加人数：29人	2011年11月2日 横浜市健康福祉総合センター 参加人数：27人	2012年10月28日 市川健康福祉センター 参加人数：19人	2012年1月30日 浦和合同庁舎 参加人数：13人
2012年7月20日 都庁第一庁舎 参加人数：29人	2012年11月7日 横浜市開港記念会館 参加人数：17人	2012年10月19日 市川健康福祉センター 参加人数：13人	2012年9月14日 浦和合同庁舎 参加人数：19人
2013年6月21日 都庁第一庁舎 参加人数：22人	2013年11月1日 横浜市開港記念会館 参加人数：19人	2013年10月22日 市川健康福祉センター 参加人数：13人	2012年10月4日 浦和合同庁舎 参加人数：13人
プログラム： ① 開催都県のHIV/エイズ対策 ② アイスブレイク ③ 手記リーディング ④ セクシャリティへの理解と求められる配慮		⑤ MSMを対象にした戦略研究と成果 ⑥ 検査環境の取組み事例紹介と意見交換 ⑦ セクシャリティに配慮した模擬対応 ⑨ 相談・支援に役立つリソース紹介 /コミュニティセンターakta見学	

### ● アンケートによる参加者からの反応（神奈川県の参加者）

- ・ 性的な話題への抵抗感 → 研修を通して、性的な話題への抵抗感を感じる人が少なくなった。
- ・ 身近にMSMがいるという意識 → 研修を通して、身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた。
- ・ HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応できるか → 研修を通して、対応への自信がついた人が増えた。

25

## 保健所等HIV抗体検査・相談担当者のMSM対応研修プログラム

### (i) 守秘義務やグランドルールの確認及びアイスブレイク(導入)

### (ii) HIV陽性者などの手記リーディング

MSMのHIV陽性者や周囲の人たちの手記を朗読し、検査サービス提供者である研修参加者に、利用者側のリアリティに触れてもらいつつ、支援の課題について振り返る。

### (iii) 講義パート

#### □ 講義：セクシュアリティについて

セクシュアリティについての基礎知識、対応に際して求められる態度、配慮のポイントなどを講義する。

#### □ 講義：MSMの疫学的な知識

講師は名古屋市立大学の研究者。研究データや、保健所・検査所の受検者アンケート結果をフィードバックする。

#### □ 講義：地域のHIVの動向

講師は主に自治体の担当者で、地域のエイズ動向及びエイズ対策事業について紹介する。

#### □ 地域検査サービス提供者による取組み事例(事例提供者が得られる場合のみ実施)

講師は検査サービス担当者。先駆的な取組みや、工夫などを共有する。

#### □ 講義：医学的な知識(沖縄県、講師はエイズ診療拠点病院医師、地域のHIV/AIDSの状況について共有)

### (iv) 模擬対応

4～5人程度のグループに別かれ、グループ数にあわせて数名のMSM当事者に参加してもらおう。MSM当事者はシナリオをもとに受検者役となり、HIV検査のプリテスト・カウンセリングの場面を設定して模擬対応を演じる。

その後、研修参加者、MSM当事者、観察していた他のメンバーで振り返りを行う。

進行役に、講師や行政技官に参加してもらい、模擬対応の運営を行う。

数名のMSM当事者はグループを移動しながら、それぞれのグループで同じ役の受検者を演じる。

全員が模擬対応を経験した後、感じたこと、気がついたことをグループ内で話し合い、その後、全体で共有する。

### (v) NPOによる資料の紹介

コミュニティセンターやNGOが制作している資料を紹介し、HIV検査場面での活用方法および検査環境にMSMを意識して制作された資料が設置されることの意味を解説する。

26

# 戦略研究で開発、実施されたプログラム等の その後の活用について -阪神圏-

## (1) クリニック検査キャンペーンの継続

大阪府は、戦略研究で開発したクリニック検査キャンペーンを「地域医療再生基金事業」により継続し、MSMが受検しやすいHIV/STI検査受検機会を提供した。戦略研究後のクリニック検査キャンペーンの月当たりの受検者数は、戦略研究時の約2倍に増加した。HIV陽性率は戦略研究と比較して若干低下したが、保健所等と比べると高い陽性率で、MSMに向けたHIV検査普及プログラムとしての有効性が戦略研究同様に実証された。

## (2) 阪神圏におけるCBO/NPO・行政連携

大阪地域におけるMSMのHIV予防と検査をめぐる環境を向上させるため、戦略研究で関係構築されたCBO/NPOと地域のエイズ担当者によるプロフェッショナル・ミーティング(PM)が企画された。また、検査場面でのMSM対応の準備性を高める事を目的に、HIV検査・相談事業に関わる保健師や医師等を対象に、MSM対応の模擬体験を主としたプログラムが実施された。

## (3) HIV陽性者支援プログラムの継続

戦略研究で初めて近畿地域に設置されたHIV陽性者のための支援プログラム「HIVサポートライン関西(HIV陽性者・パートナー・家族のための電話相談)」および「ひよっこクラブ(HIV陽性とわかって間もない人のための少人数グループ・プログラム)」が厚生労働省委託事業としてNPO法人CHARMによって継続された

27

## 阪神圏のクリニック検査キャンペーン 戦略期間中とその後の成果

MASH大阪  
8-クリニック  
大阪府・地域医療  
再生基金事業

MSMの  
受検促進の  
ための企画

### NPO・CHARMによる支援活動

◆相談支援:  
陽性が判明した人のための相談機会や  
支援環境の整備

#### POSP電話相談

- ・HIV陽性の人を対象とした電話相談
- ・報告(相談者の声を地域の支援者等と共有)



#### ひよっこクラブ

- ・HIV陽性とわかって間もない人のためのグループプログラム

#### カンファレンス

- ・地域の支援者ネットワーク構築を目標としたカンファレンス(事例検討会、ミニシンポ)

実施年	実施施設数	実施期間	受検者数	陽性割合 (%)
2007	3	2ヵ月	28	14.0
2008	7	1.5ヵ月	17	5.9
2009	7	8ヵ月	272	4.4
2010	7	8ヵ月	263	5.7
2011	7	3ヵ月	189	3.2
2012 -夏	7	3ヵ月	236	2.6
2012 -冬	8	3ヵ月	202	5.0
2013 -夏	8	3ヵ月	222	2.7

# 戦略研究で開発、実施されたプログラム等の その後の活用について -保健所受検者アンケート-

- 協力施設: 8都府県11自治体の保健所等83施設  
(沖縄県、東京都、愛知県、名古屋市、大阪府、大阪市、神奈川県、横浜市、千葉県、福岡市、仙台市)
- 調査期間: 2011年11月～2013年9月末

地方のMSMにおいてエイズ患者が増えている現状から、地域の保健所等でのMSM受検者の状況を把握し、自治体と地域NGOが協働してMSM対象のHIV検査を促進する施策の効果を評価することを目的に、戦略研究で実施した5分間受検者アンケートを改訂して、2011年から実施した。集計結果ダイジェスト版を3か月毎に還元。

## ○3都府県のHIV陽性判明報告の有無別・受検者中のMSM割合

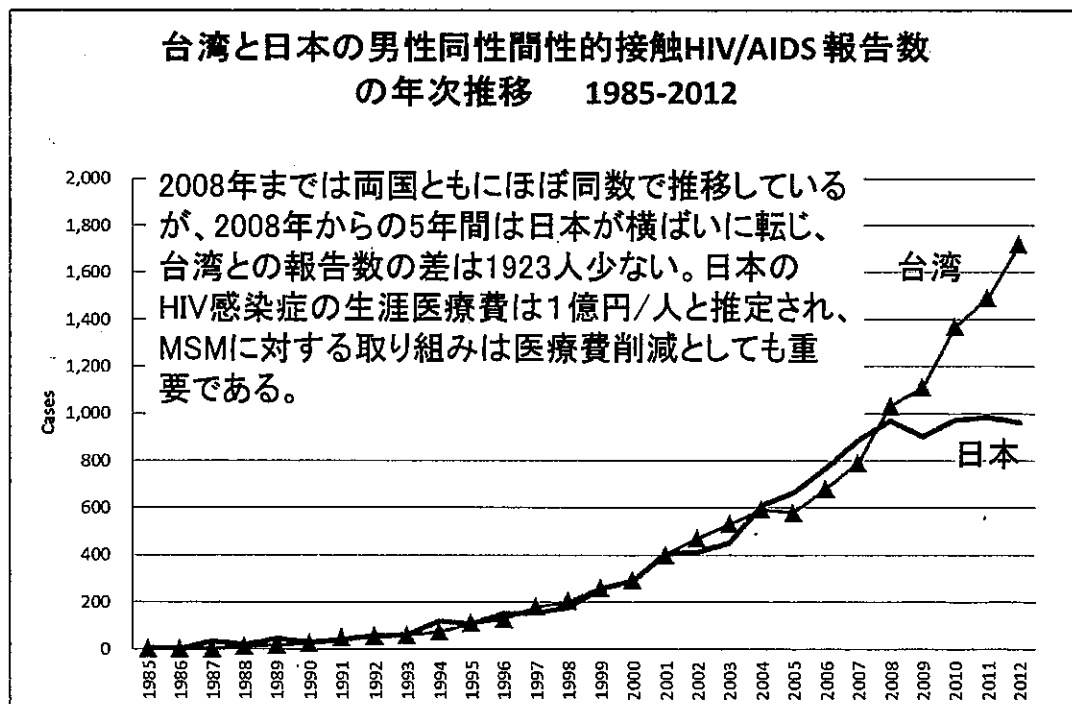
陽性判明の有無	東京都	愛知県	大阪府
無かった施設	8.8%	8.1%	7.3%
有った施設	16.2%	16.1%	13.5%

\*いずれの都府県においてもカイ2乗検定による有意差 $p < 0.01$

\*大阪府・大阪市は2013年以降も調査を継続、施策評価に受検者中のMSM割合を使用。仙台市も研究班の分析結果をエイズ対策参考資料としている。また、岡山県など他の自治体でも導入を検討している。

29

# 戦略研究後のHIV/AIDSの動向 MSMへの取り組みについて



出典: 1) 台湾CDC愛滋病統計資料; <http://www.cdc.gov.tw/downloadfile.aspx?fid=909C64F271CE1554>  
2) 平成24 (2012) 年エイズ発生動向年報、厚生労働省エイズ動向委員会

30

# 日本の成人男性に占めるMSMは？

成人男性(20-59歳)  
分析対象者: 39,766

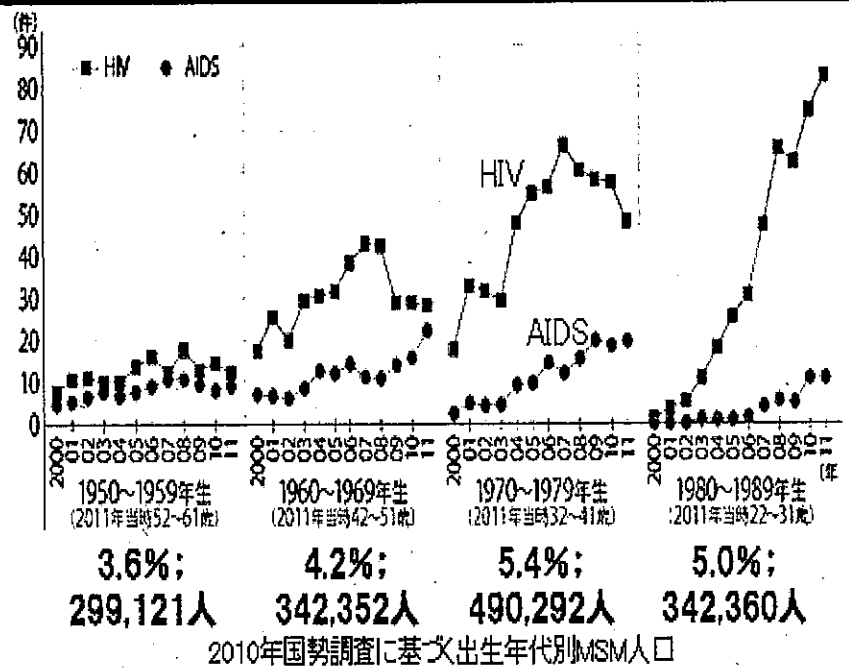
性的魅力の対象	性的接触の対象	回答割合
異性	なし	7.5
異性	異性	81.2
異性	同性	0.7 *
同性	なし	0.9
同性	同性	3.8 *
同性	異性	3.8
感じない	同性	0.1 *
感じない	異性	0.7
感じない	なし	1.3

同性指向: 8.5%

\*MSM: 4.6%

出典: H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施評価の体制整備に関する研究」(代表市川誠一)

出生年代別のMSM人口に基づく  
HIV/AIDSの年次発生動向 (人口10万対)



出典: H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施評価の体制整備に関する研究」(代表市川誠一)

31

## 今後の施策に生かすための提言

- HIV感染症に対する治療は一生継続され、生涯治療費は20代感染者一人あたり1億円を超える。このことを考えると、予防にかける費用は、将来の医療費削減への効率的な投資といえる。行政の関与が検査件数にダイレクトに影響することを考えると、保健所の体制強化を含めたHIV抗体検査の推進を積極的に行うべきである。
- 現在の日本のHIV感染症はMSMが60%を超える。社会的に偏見・差別が存在するMSMに向けたエイズ対策には、当事者NGOの活用が重要である。戦略研究ではNGOとの協働によりMSMに訴求性のある啓発介入を可能とした。経済基盤の弱いNGOに対し継続性のある十分な支援と連携がわが国のエイズ対策に必要なことである。